WinBook Pro

J3DX4／100C

ユーザーズガイド

SOTEC

WinBook Pro

ノートブック　コンピュータ
ユーザーズガイド

株式会社ソーテック

重要なお知らせ

このユーザーズガイドに含まれる情報は事前にお知らせすることなしに変更される場合があります。
本製品ならびにソフトウエアおよびマニュアルを運用した結果の影響についてはいっさい責任を負いかねますのでご了承ください。
本製品およびソフトウエアの仕様は予告なしに変更することがあります。

版権についてのお知らせ

神奈川県横浜市中区太田町4-55
横浜馬車道ビル

本ガイドにおいて説明されている各ソフトウエアはライセンスあるいはロイヤリティ契約のもとに供給されています。ソフトウエアおよびそのマニュアルは、そのソフトウエアライセンス契約にもとづき同意書記載の管理責任者の管理のもとでのみ使用することができます。それ以外の場合は当該ソフトウエア供給会社の承諾なしに無断で使用することはできません。

Microsoft・MS-DOS・Version6.2/V, 5.0/Vは、米国マイクロソフト社の登録商標です。以下MS-DOSと省略します。
Microsoft・Windows TM Version3.1は、米国マイクロソフト社の登録商標です。以下Microsoft Windows又はWindowsと省略します。
SystemSoftは米国システムソフト社の登録商標です。
Maxiimizer、Any Key Resume、CARDSOFTは、米国システムソフト社の登録商標です。
PS/2は米国IBM社の登録商標です。
PCMCIAは米国PCMCIA社の商標です。
SLエンハンストi486DX4は米国インテル社の登録商標です。以下DX4と省略します。
StickPointerはアルプス電気株式会社の登録商標です。

CONTENTS

START

このセクションでは

1

First Step

3

4

バッテリ

5

システムコンフィグレーション

6 サウンド機能を使う

7 オプションデバイスを装着する

START

このセクションでは

●このセクションでは
- WinBook Proの標準機能
- WinBook Proシステムに含まれているもの
- 取り扱い上の注意
- さあ、はじめましょう
- ガイドの使い方
- 困ったときには

ソーテックWinBook Proコンピュータをお買い上げいただきまことにありがとうございました。ソーテックWinBook Proコンピュータはデスクトップコンピュータに匹敵する機能をA4サイズの中に凝縮した、コンパクトで多機能なノートブックコンピュータです。
このガイドはソーテックWinBook Proコンピュータをどのように使い、維持するかについて説明しています。コンピュータをご使用になる前にどうぞ最初のセクションを注意深くお読みください。このセクションの終りにはこのガイドの残りの部分でカバーしている各項目について、あなたの経験の度合に応じてどのように進めばよいかの説明があります。

WinBook Proの標準機能

- 486DX4マイクロプロセッサ搭載
- 内蔵RAMは標準8MB
- 32ビットローカルバス接続でWINDOWSアクセラレータ機能付きのVGAコントローラ搭載
- 256色DSTN10.4インチカラー800×600ドット解像度LCD搭載
- マルチ周波数モニタなどを接続時に、より高解像度のWindows表示がCRT上に可能
- LEDによる各種動作モード表示
- 3.5インチ3モード内蔵フロッピーディスクドライブ
- キーボード組み込み型スティックポインタマウス機能
- 取り外し可能な540MBハードディスクドライブ
- 2枚まで装着可能な拡張RAMモジュール
- 2枚まで装着可能なICカード用スロット
- 16ビットサウンド機能と音声入出力端子装備
- ACアダプタ、ACケーブル

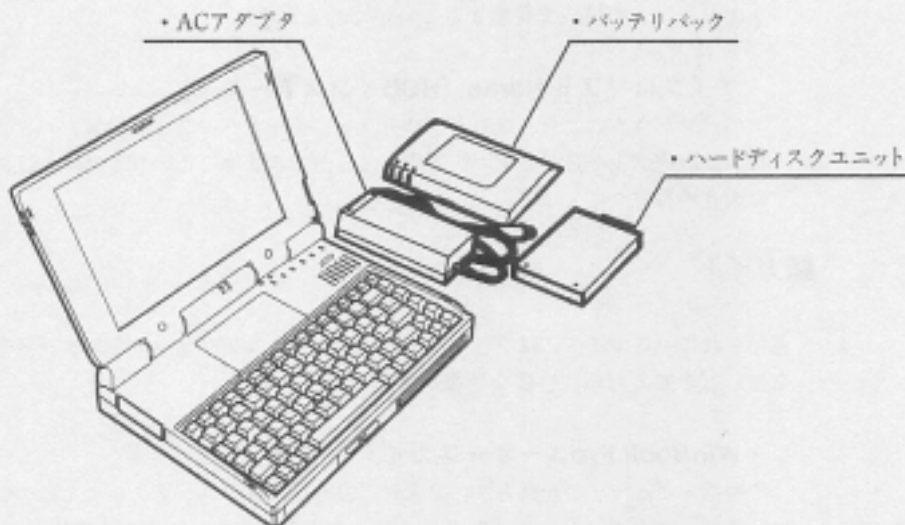
WinBook Proに含まれるもの

■ハードウエア、アクセサリ

*WinBook Pro*ノートブックコンピュータを構成するために以下のようなハードウエアとアクセサリが含まれています。

・*WinBook Pro*コンピュータ本体
・取り外し可能なハードディスクユニット（本体に装着されています）
・取り外し可能なバッテリパック（本体に装着されています）

バッテリパックは出荷時に絶縁紙をはさんで、本体に装着されています。4章のバッテリパックの着脱の項目をお読みのうえ、バッテリパックを取り外して絶縁紙を取り去り、再び装着してください。

・ACアダプタ電源とACコード
・保証書
・ユーザ登録カード
・テックサポートFAXシート

1章ではこれらの品々の簡単な使い方について説明しています。2、3章そして4章にすすめばさらに詳しくコンピュータの各部について説明しています。

■ソフトウエア

いくつかのユーティリティとオペレーティングシステム（OS）がハードディスクドライブ（以下HDD）へインストールされています。

・CARDSOFT、サウンドアプリケーションなど

PCMCIAカードを使用するためのドライバ、サウンド機能を利用するためのプログラムなどいくつかの便利なプログラムがHDDにインストールされています。使用方法はAPPENDIX　Bに記述してあります。

・MS-DOS（HDDインストール済）

このプログラムにより、基本的なコンピュータの操作つまり、情報をディスクに書いたり新しいディスクを使用できるよう準備することなどを行うことができます。MS-DOSはあらゆるプログラムを実行させる機能を持ちます。その他のオペレーティングシステムをコンピュータに組み込まない限り、コンピュータをスタートさせる度にいつもMS-DOSを使用することになります。

・マイクロソフトWindows（HDDインストール済）

DOS上で動作し、グラフィクスを用いて各種の用途に使用されます。マイクロソフトWindows（以下Windowsと略します）により、アプリケーションの操作や、起動が簡単になり、同時にいくつかのアプリケーションを走らせることができるとともにディスク上のファイルの構成を管理することができます。

・マイクロソフトWorks（HDDインストール済）

このプログラムにより、ワードプロセッサ、データベース、表計算、パソコン通信（モデムは別途購入が必要です。）が行うことができます。このプログラムはあなたの仕事に大きく役立つでしょう。

■ガイド

添付されているガイドにはソーテック*WinBook Pro*コンピュータをスタートさせ、基本的な使い方を知るために必要な情報が含まれています。

・*WinBook Pro*ユーザーズガイド（本書）

このコンピュータの起動方法、手入れ、おもな部品やユーティリティについて説明しています。またオペレーティングシステムの主な使い方についても説明しています。

・マイクロソフトWindows＆MS-DOSユーザーズガイド

Windowsの基礎から高度な使い方について説明しています。Windowsに対する操作はWindowsのアプリケーションの操作と共通する点が多いため、Windowsのアプリケーションを使う前にこのガイドの基礎の2項目を読まれることをおすすめします。
MS-DOSの初歩的操作、コマンド、環境などについて合わせて説明してあります。
このセクションの終りにはWindowsとMS-DOSの主な機能について説明しています。

システムソフトウエア

*WinBook Pro*システムのMS-DOS、Windowsのどちらも詳細に説明されたマニュアルが別に添付されています。ここではこれらのソフトウエアについて簡単に理解できるように概要を説明しています。

■MS-DOS

MS-DOS（またはMicrosoft Disk Operating System、一般的にDOSと呼ばれています。）はコンピュータの電源をオンさせる度に通常スタートさせるプログラムです。このオペレーティングシステムはその他のすべてのプログラム（Windowsを含みます。）のためにコンピュータと直結した基本的な機能を管理するものです。
もしあるアプリケーションがあるデータをハードディスクもしくはフロッピーディスクから読み込む必要がでた場合、また画面に文字（テキスト）やグラフィックを表示したいとき、MS-DOSがその目的に使用されます。
また、MS-DOSを直接使用することもできます。数十種のコマンドを"DOSプロンプト"（一般的にC:>）でタイプすることができます。ほとんどのコマンドはハードディスクあるいはフロッピーディスクに対して何かを行う命令です。以下のようなことができます。

・ディスクの内容を表示させる
・ディスクのファイルを管理する（コピー、消去、名前変更）
・システムのメモリを管理する

Windowsのアプリケーションのみを使用するなら、あなたがDOSのコマンドを直接触る機会はたいへん少ないでしょう。DOSのアプリケーションを使用する場合でもそれらのアプリケーションをスタートさせること以外にDOSコマンドをタイプすることは少ないでしょう。またアプリケーションの中で、それら自身があなたのデータを保存したり、コピーしたりするのに使われることがあります。
さらに詳しいことを知りたい場合にはMS-DOSのマニュアルをご覧ください。

■Microsoft Windows

WindowsはDOSのもとで動作します。Windowsは一般的なアプリケーションプログラムではなく、オペレーティングエンバイロメント（操作環境）といわれるものになります。Windowsの目的はアプリケーションを使うのをより簡単にすることにあります。またDOSにはないいくつかの機能を提供します。
Windowsにおいてコンピュータの画面は"デスクトップ（机の上）"と呼ばれます。Windowsの名前はデスクトップ上で使用されるファイルやプログラムを含む、四角い額縁または窓（ウインドウ）から由来しています。
それぞれのプログラムや、ファイルはデスクトップ上に"アイコン"と呼ばれるもので表現されます。マウスを使って各種の操作をアイコンに対して行うことができます（Windowsではマウスの代わりにキーボードによる操作を行うこともできますが、その効率や、操作感はよいものではありません。Windowsを使いこなすにはマウスか、スティックポインタがぜひ必要です）。たとえば、アプリケーションのアイコンにマウスのポインタ（矢印）

を移動させ、マウスボタンを2回押す（ダブル・クリック）ことは、そのアプリケーションをスタートさせることを意味します。

あなたは同時に1つ以上のアプリケーションをそれぞれのウィンドウにおいて実行させることができます。最初はそれぞれのアプリケーションウインドウは画面（つまりデスクトップ）いっぱいに広がっています。一番上にのっているものだけを見ることができます。しかし、あなたはこれらを小さくしたり、整列させたりすることができます。いちどきに1つのウインドウをアクティブにすることができます。しかしその他へも単純にクリックさせることで移ることができます。

ファイルもほかのアプリケーションのように、それ自身のウインドウにてオープンさせることができます。

その他のWindowsの特徴として、すべてのアプリケーションの基本的操作方法はすべて共通していることがあげられます。このことは1つのアプリケーションについてどのように作業するか習得すればその他にもまた適用することができるということを意味しています。同じ理由で、Windowsのアプリケーションを走らせる前にWindowsの基本を習得しておくことがもっとも良いことであるといえます。

Windowsのさらに詳しい内容を知りたい場合は、ソーテック*WinBook Pro*パッケージに付属するマニュアルを参照してください。

■Microsoft Works

Microsoft Worksにはワードプロセッサ、表計算、データベース、通信の4つのツールが入っています。ワードプロセッサツールにより、手紙や報告書などの文書を作成することができます。表計算ツールにより、表の作成や数値計算など数字を使ったいろいろな作業をおこなうことができます。またこの表のデータを元にしてグラフを作成することができます。データベースツールにより、さまざまなデータを記憶させてこれを活用することができます。記憶させたデータは日付順に並べ変えたり、必要なデータを取り出すことができます。通信ツールを使用して商用ネットワークや他のコンピュータとの間でデータのやり取りを行うことができます。電話回線を利用して通信を行うには別にモデムが必要になります。

取り扱い上の注意

*WinBook Pro*システムは高品質の材料から組み立てられています。しかしながら、大きなシステムにくらべて小型軽量のこのシステムはよく持ち運ばれて使用されることと思います。この点からみてあなたのデータが失われたりシステムがダメージを受けたりしないよう、以下に説明する各項目について特に注意を払ってください。

・コンピュータを落下させないでください。また重いものをコンピュータの上にのせないでください。
・どうしても必要なとき以外は、コンピュータの動作中、特にハードディスクやフロッピーディスクが動作中にはコンピュータを移動させないでください。また電源オフ直後10秒程度も移動させないでください（ハードディスクが完全停止するまで）。
・ACアダプタを使用しているとき、電源が100-240Vの範囲であることをお確かめください。このことは海外に持ち運んで使用したときに特に重要な項目です。電源電圧がこの範囲を越えている場合にはけっしてACアダプタを差し込まないでください。
・コネクタ類をつけたり、はずしたりするときにはその前にコンピュータの電源をオフしてください。
・直射日光の当たるところで長時間コンピュータを使用しないでください。高湿度の場所（20-80%の相対湿度）やほこりの多い場所または濡れた手でコンピュータを使用しないでください。
・研磨材の入ったものや目の荒い布などで、ディスプレイの表面を拭かないでください。
・振動を発生するもの、磁界を発生するもの、有機溶剤、腐蝕性のガスの近くにコンピュータをおかないでください。保管できる温度の範囲は-10度から60度までです。
・ACアダプタはソーテック*WinBook Pro*コンピュータ以外には使用しないでください。
・ACアダプタのケースは分解しないでください。このACアダプタは修理するため分解することはできません。
・ACアダプタを着脱するときには、コードではなくケーブルのプラグを持って行ってください。
・ACアダプタを温度、湿度の大きく異なるところにさらさないでください。
・ACアダプタをほこりや水気のあるところにおかないでください。また腐蝕性ガスのあるところつまり、有機溶剤などのあるところにおかないでください。
・ACアダプタを熱の発生する物のそばにおかないでください。また直射日光のあたる場所に放置しないでください。
・ACアダプタをなげたり、落としたりしないでください。また上に何ものせないでください。
・もし、ACアダプタから何かこげるような臭いがしたり、ACアダプタの表面がたいへん熱いときには直ちにACコードを抜いてください。
・LCD（液晶ディスプレイ）の表面についたごみを取り除く場合にはやわらかい布を使って、注意深く拭いてください。最寄りのコンピュータショップには画面を拭くために専用に作られた布が販売されていますので、これを利用することもできます。
・フロッピーディスクを掃除する場合には市販されている、3.5インチタイプの湿式のクリーニングディスクをお求めのうえ行ってください。

以下のソーテックの部品は定期的に交換していただく必要があります。

- 充電式バッテリパック。充電を行うことができなくなったときに交換します。（4章に詳しい説明があります。）
- リチウムバッテリ。このバッテリは内部の時計、カレンダに電源を供給しています。コンピュータの電源をオフさせたあと、CMOSバッテリエラーが次の電源オン時に表示されるようになったら、お求めの代理店に電池を交換するようご指示ください。

専用のバッテリパック以外のものをコンピュータを動作させるために使用すると、電池が破裂するなどの危険があります。ソーテックの保証する*WinBook Pro*専用バッテリパックをお求めのうえ交換してください。

Caution: There is a danger of explosion if you insert a battery other than the battery intended for use with this computer. Replace only with an *WinBook Pro* battery authorized by SOTEC

さあ、はじめましょう

*WinBook Pro*に付属してくる各ガイドにはコンピュータをセットアップし、操作するために必要なすべての情報が含まれています。1章では*WinBook Pro*を初めて使用する場合にどのようにしたらよいかを以下の各ステップにて説明しています。

1）システムを構成する各部に慣れる

1章は、コンピュータの各部をどのように操作すればよいのか、知っておくべき概要を説明しています。

2）バッテリパックをコンピュータに組み込む

*WinBook Pro*コンピュータはAC電源またはバッテリ電源のいずれでも動作させることができます。製品出荷のとき、バッテリパックは充電された状態ではありません。充電するには一度装着されているバッテリパックを取り外し、本体とバッテリパックの端子のあいだに挟まれている絶縁紙を取り除いてから再びバッテリパックを装着してください。

充電はACアダプタが接続され、コンピュータが使用していない状態で、約2時間30分で完了します。電池の装着方法は1章の各部の概要の後に説明されています。

3）システムの時刻と日付を設定する

1章の終りでシステムの時間と日付を設定する方法を説明しています。

これらのステップをへて、アプリケーションソフトウエアをシステムへインストールする準備が整います。

以下の表は始めるときにどこに説明があるかを知るための手掛かりとなります。あなたが経験のあるユーザの場合でも、×マークのついている項目（経験者向け）は確認していただけるようお願い致します。

作業項目	説明の場所	経験者のかたは
基本的なシステムの構成部品の概要	1章	
バッテリパックの装着	1章	×
コンピュータの起動とセットアップ	1章	×
データ格納メディアの取り扱い	2章	
キーボードを使う	3章	×
バッテリを使う	4章	×
追加オプションを装着する	7章	×

本文中の表記について

diskcopy	この字体で書かれている文字は示されているとおりにキーボードからタイプされなければなりません。特に指示がなければ大文字、小文字の区別はありません。どちらでも使用することができます。
System Configuration	この字体で書かれた文字はコンピュータの画面に表示されているものであることを示します。
<>	この括弧でくくられた文字列はその文字の示すようなキー操作を示します。たとえば<Enter>は"Enter"と印字されたキーを押すことを示します。
<Ctrl>+<C>	キーボードのキーはこの字体で記述されています。複数のキーを組み合わせて押すときには+でつなげています。この例では"Ctrlと印字されたキーとCと印字されたキーを同時に押す"ことを意味しています。

注意　注意していただきたいことが書いてあります。

警告　操作手順上または取りあつかい上必ず読んでいただきたいことが書いてあります。

補足　知っていると便利なことが書いてあります。

困ったときには

このガイドを参照してもソーテックWinBook Proコンピュータに関する問題が解決しない場合には、以下のテクニカルサポートセンタにお問い合わせください。

電話番号:045-661-7358
株式会社ソーテック テクニカルサポートセンタ
毎週 月曜日から金曜日の午前10時から午後4時まで（祝祭日をのぞきます。）

この番号にかける前に以下の項目を準備されているか確認してください。

・どの代理店から購入されましたか?
・コンピュータのシリアル番号（製造番号）。これはコンピュータの底面に貼りつけてある、ラベルに印刷してあります。
・問題のできるだけ詳しい内容
・コンピュータそのもの

その他の方法として、その問題の説明をこの製品に付属するテクニカルサポートFAXシート記入用紙に記入いただき、以下の番号あてFAXで送付いただく方法もあります。

FAX番号:045-662-0656
株式会社ソーテック テクニカルサポートセンタ

また、書面の郵送または物品の送付の宛て先は以下のところへお願いいたします。
なお、ご発送の際には必ず購入時と同じ梱包（梱包箱、パッキン）にてご返送願います。

郵便番号 231 神奈川県横浜市中区太田町4-55 横浜馬車道ビル
株式会社ソーテック テクニカルサポートセンタ

HDDを修理する場合はドライブのみの修理もしくは交換となります。記憶されているアプリケーション、データ等の保証、修復はいたしかねますので重要なものについては必ずコピーをとるようお願いいたします。

First Step・1

●この章では

・コンピュータの開け閉め
・部品の概要、電源とマイクロプロセッサシステム
・スティックポインタ
・コンピュータの起動
・日付、時刻の設定
・コンピュータのリセット

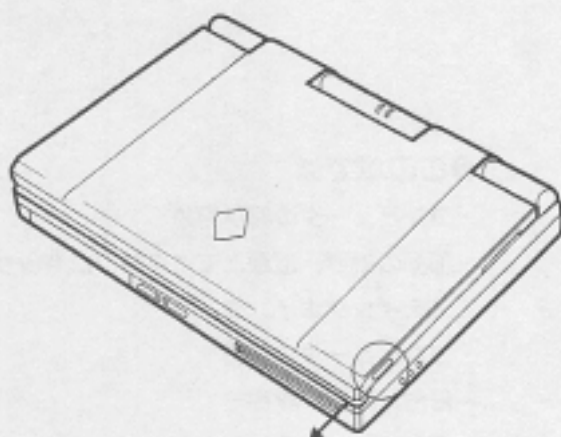
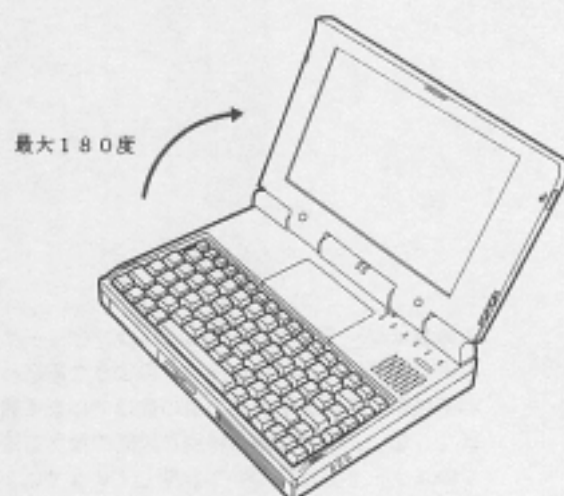
この章はソーテックWinBook Proコンピュータの基本的構成品とどのようにプリンタや外部モニタのような周辺装置を接続するかについて説明しています。この章の最後ではまず最初に必ず行わなければならない、いくつかの特別な段階の操作方法を含めたコンピュータのスタート方法について説明しています。
その他のコンピュータを使ったことがある場合は、この章のいくつかの項目は飛ばしたくなるでしょう。しかし、システムの構成品、起動、システムコンフィグレーションの方法については一度目を通しておいてください。

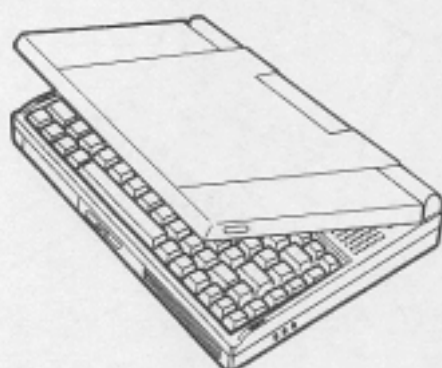
コンピュータの開け閉め

もし以前の項目で説明した注意点をお読みになっていない場合はこの先に進む前にどうぞ注意点をお読みになってください。

■コンピュータを開ける

コンピュータを開けるときにはは以下の絵のようにコンピュータをおいてください。
ここにはコンピュータの両脇にスライド装置がそれぞれ1つずつあります。

1)コンピュータの前に向かって両方のスライド装置（イラストに示すように）をスライドさせます。

2) カバーをLCD画面の見やすい角度まで開きます。ACアダプタが接続されていなければ180度まで開けることができます。

■コンピュータを閉じる

コンピュータを閉じるには単純にカバーをもとの位置に戻し、ラッチがかかるまで、やさしく押します。（カバーを閉じるときにコンピュータがオンの状態だったときはコンピュータは、後で説明するサスペンド状態に入ります。作業を続ける場合はカバーを開け、何かキーを押します。）

WinBook Pro各部の外観説明

■左前から

各LEDにはシンボルマークが刻印されています。各シンボルマークは以下の表のような対応となっています。それぞれのLEDの意味はこのあと説明されています。

	充電状態		CPU状態
	電源状態	1	NUMロック状態
	HDD状態	A	CAPSロック状態
	FDD状態		SCRLロック状態

1. LCD画面

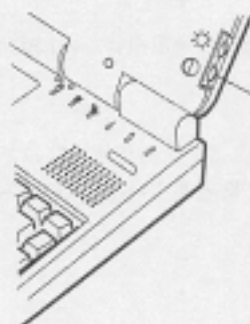
LCD画面はLCDの背後にある照明により照らされ、コンピュータの使用中は通常点灯しています。電池の使用時間を引き伸ばすために指定した数分のあいだコンピュータが使用状態にないとき、自動的に照明装置を切ることができます。何かキーを押せば元の使用できる状態に戻ります。（5章の"システムコンフィグレーション"の項目を併せてお読みください。）

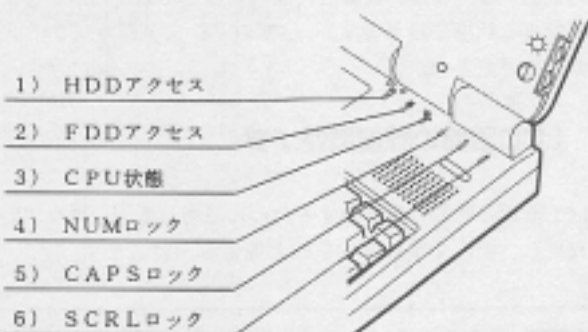
2. LCD画面の輝度調整ノブ

LCD画面の明るさを調整するために使用します。見やすい明るさに調整してください。ただし、明るくすればするほど電池を消耗します。

*WinBook Pro*のLCD画面輝度はバッテリ動作中は輝度が自動的に最低に設定されますので、LCD画面の輝度調整ノブでのコントロールはできません。

3. LCD画面のコントラスト調整ノブ

LCDのコントラストを調整するために使用します。見やすいコントラストに調整してください。

4. ステータスLED

ここに並ぶ数個のLED（発光ダイオード）はWinBook Proの動作状態を示すために設けられています。

1) HDDアクセス

HDDの使用中にこのLEDが点灯します。

このLEDが点灯中にコンピュータの電源をオフにしてはいけません。

2) FDDアクセス

フロッピーディスクドライブ（以下FDD）の使用中にこのLEDが点灯します。

3) CPU状態表示

CPUのスピードに応じてLEDの色が変化します。緑色に点灯しているとCPUは通常のスピードで動作しています。パワーセーブ機能あるいはCPUスピードをLOWスピードに設定すると、オレンジ色に点灯します。

4) NUMロック

NUMロック状態にあると、このLEDが点灯します。この状態のときエンベデッドキーパッド部分が使えるようになります。（3章も併せてお読みください。）

5) CAPSロック

CAPSロック状態にあることを示します。このとき、アルファベットキーはシフトキーを押さずに大文字を入力することができます。

6) SCRLロック

SCRLロック状態にあることを示します。このモードにおける使い方はアプリケーションプログラムによって異なります。

5. HDDスロット

HDDカートリッジがここに収納されます。後述する、HDDカートリッジ取り出しボタンを押すことにより、HDDカートリッジを前に引き出して、取り外すことができます。

コンピュータがオンになっている間はHDDカートリッジを取り外さないでください。

6. キーボード

キーボードに関しては3章にある説明をお読みください。

7. 電源スイッチ

このボタンを押すことで、コンピュータの電源をオンオフさせることができます。

ハードディスク（HDD）やフロッピーディスクドライブ（FDD）を使用中に電源をオフにしたり、コンピュータを動かしたりしないでください。電源をオフにした後、再び電源を投入する場合は15秒以上まってください。

8. 拡張RAMエリア

このカバーを持ち上げることにより、拡張RAMモジュールを装着あるいは取り外すことができます。その方法について詳しくは7章の説明をお読みください。

9. スティックポインタ

キーボードの中央にある小さな突起がスティックポインタです。この装置はマウスの代わりにプログラムの中で使用することができます。突起の先端に指を軽くのせてカーサを動かしたい方向に軽く押します。詳しい使い方についてはこの章の後半をお読みください。

10. リセットスイッチ

システムをリセットする場合にこのボタンを押します。この動作により、使用しているすべてのどんなプログラムもデータをセーブせずに終了し、システムがDOSを再ブートします。一般的にシステムが“ハング（凍結してしまう）”状態のときか、キーボードからの入力に対して反応しなくなってしまったときにのみ使用します。

11. 電源LED

コンピュータの電源がバッテリのみで使用時にオン状態にあると、緑色に点灯します。バッテリ使用時にバッテリパックの残量が少なくなると、オレンジ色に点灯変化します。ACアダプタ入力が接続されている場合、黄色に点灯します。システムがサスペンド状態にあるとLEDはそのときの電源条件の色にて点滅します。

12. 充電LED

このLEDは現在の電池の充電の状態について表示を行います。
電池が充電中はオレンジ色に点灯します。
電池が満充電になると、緑色に点灯します。
充電中になんらかの異常が発生してそれ以上充電が継続できなくなった場合は消灯します。また電池のみでACアダプタから給電されていないときも消灯しています。

13. ICカードスロット

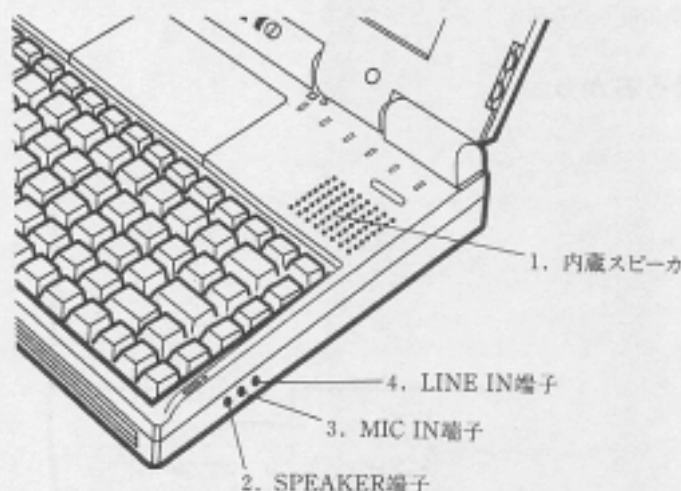
このICカードスロットにPCMCIA規格準拠のICカードを装着して使用することができます。PCMCIAカードを使用するときにはソケットサービス、カードサービスを始めとするプログラムをインストールする必要があります。詳しくは7章の説明をお読みください。

14. FDD

ここから3.5インチフロッピーディスクを挿入します。フロッピーディスクを抜くときにはFDDの左側にあるボタンを押してください。

FDD使用中LEDが点灯している間はディスクを取り出さないでください。

■右前から

サウンド機能に関連する説明は6章の説明をご覧下さい。

1. 内蔵スピーカ

36mm径の薄型スピーカ（モノラル）がここに内蔵されています。コンピュータの中で生成される音がここから出力されます。音量は<Fn>+<F2>キーにて大きく、<Fn>+<F3>にて小さくすることができます。

2. SPEAKER（外部スピーカ）端子

外部スピーカをお持ちですと、外部スピーカのケーブルをここに接続して、より音質の良いサウンド機能（ステレオ）を利用することができます。 音量は<Fn>+<F2>キーにて大きく、<Fn>+<F3>にて小さくすることができます。

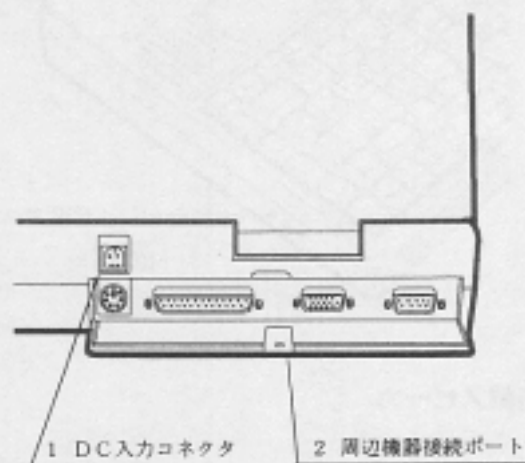
ヘッドフォンまたはイアフォンの利用はおすすめできません。コンピュータの設定条件がわからないで使用すると、期待しない大きな音がヘッドフォンから出力される場合があり、最悪の場合、あなたの耳に聴力障害を起こす可能性があります。

3. MIC IN（マイク入力）端子

マイクをお持ちの場合、マイクのケーブルをここに接続して外部の音をWinBook Proの中に取り込み利用することができます。

4. LINE IN（ライン入力）端子

CDプレーヤなど音響装置の出力をこの端子に接続することでその音を*WinBook Pro*の中に取り込み利用することができます。

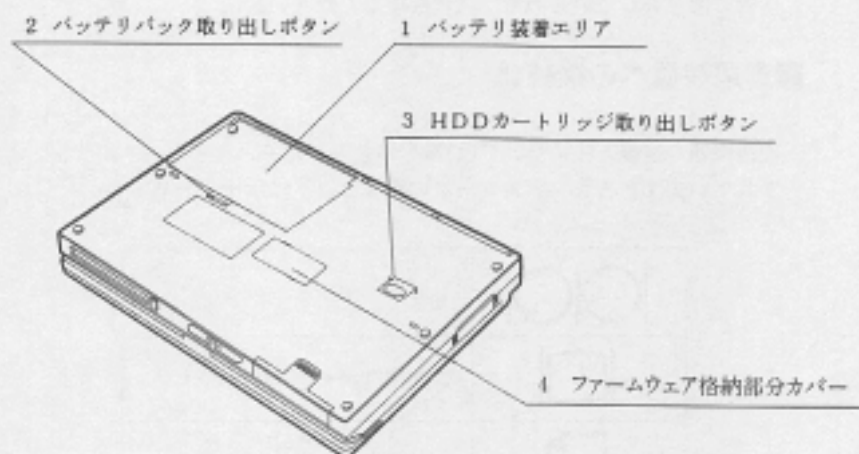
■後ろ右から

1. DC入力コネクタ

ACアダプタをここへ接続します。

2. 周辺機器接続ポート

周辺機器を接続する各ポートがこのふたの中にあります。ノブを下げながら、ふたを開けてください。

■底面から

1. バッテリ装着エリア

このエリアにバッテリパックを装着します。

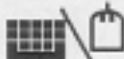
2. バッテリパック取り出しボタン

バッテリパックを取り出すときにこのボタンを押します。

コンピュータの動作中にバッテリパックを取り出さないでください。

3. HDDカートリッジ取り出しボタン

HDDカートリッジを取り出すときにこのボタンを押します。

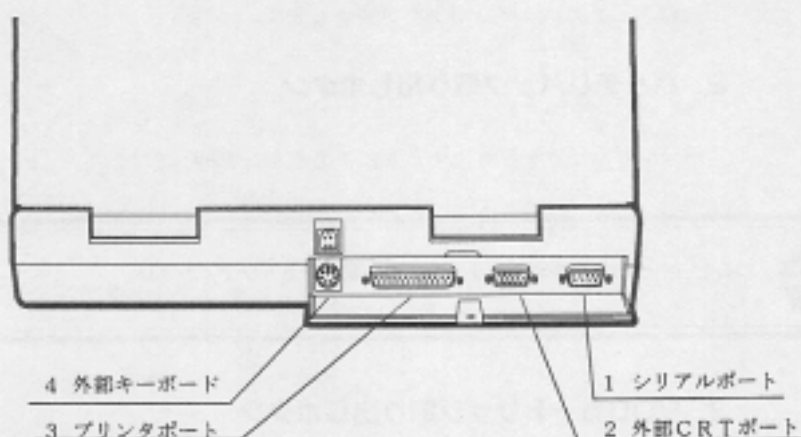
コンピュータがオンしている間はHDDカートリッジを取り出さないでください。

4. ファームウエア格納部分カバー

コンピュータの基本動作を決定するプログラムの書き込まれたICが、このカバー下に装

着されています。この部分はソーテックテクニカルサポートセンタでのみ使用する目的に用意されているので、開けないでください。

■周辺装置への接続部

周辺機器の接続方法については7章をお読みください。各ポートにはシンボルマークが刻まれています。各シンボルマークの意味は以下に示すとおりです。

	シリアルポート
	外部CRTポート
	プリンタポート
	外部キーボード・マウスポート

1. シリアルポート

シリアル接続のケーブルを経由して、外部モデムなどのシリアル周辺機器を接続します。このポート（COM PORTA）は通常では“COM1”（アプリケーションが指定するシリアルデバイス番号のこと）に設定されていますが、5章で説明するようにシステムコンフィグレーションにてCOM1からCOM4まで設定することができます。

2. 外部CRTポート

外部CRTを接続します。

3. プリンタポート

パラレルプリンタをプリンタケーブルを経由して接続することができます。このポートは通常では“LPT1”（シリアルポートと同様なポートの設定番号）に設定されていますが必要があれば5章で説明するようにシステムコンフィグレーションにてLPT1からLPT3まで設定することができます。

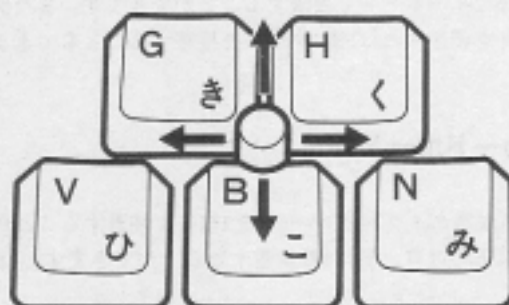
4. 外部キーボード・マウスポート

外部用PS/2キーボードを接続することができます。また別途市販のキーボード・マウスアダプタを使用すればPS/2マウスを接続することもできます。7章の説明をお読みください。

5. ICカードポート

PCMCIA規格タイプ2のICカードを2枚まで装着することができます。タイプ3のカードの場合は下のスロットに1枚装着することができます。7章の説明をお読みください。

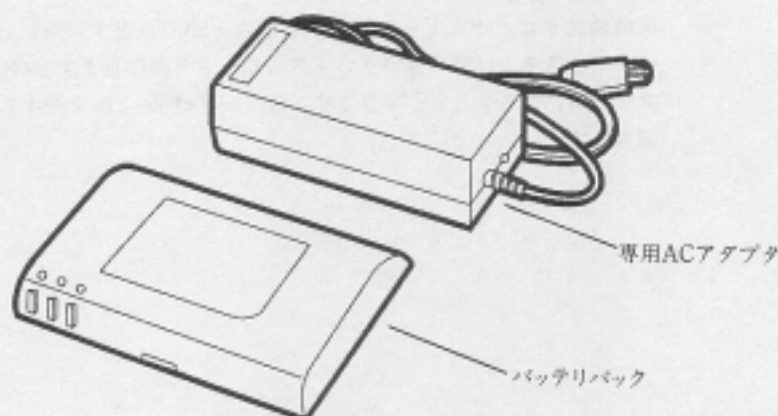
スティックポインタ

WinBook Proコンピュータはスティックポインタを装備しています。スティックポインタはWinBook Proのキーボードの中央"G" "H" "B"の各キースイッチの間に位置しています。マウスを使用するプログラムの場合には、画面上のポインタを希望の位置に移動するよう、スティックポインタの先端に指を触れ、軽く上下左右方向に押してください。また、本体の前面にある左右のボタンはマウスの左右のボタンにそれぞれ相当します。
スティックポインタは、どちらかの手の人指し指で操作します。好みによってどちらかの中指で操作することもできます。マウスの場合と同様に、ポインタを動かしたい方向に軽く押してやります。スティックポインタそのものは固定されており、指で押しても動きません。スティックポインタに指により加えられた圧力を自動的にコンピュータが検出して、マウスと同様の動きを制御します。
スティックポインタ（マウス）の使い方についてはそれぞれのアプリケーションプログラムのガイドを参照してください。

■スティックポインタの設定

スティックポインタはPS/2マウスと互換性があります。

・外部キーボードポートにPS/2マウスを直接接続した場合は、内部のスティックポインタは禁止され、外部に接続したPS/2マウスが優先して動作します。
・外部キーボードポートにキーボード･マウスアダプタを経由してPS/2マウスを接続した場合は、スティックポインタと外部に接続したPS/2マウスを同時に使用することができます。
・外部シリアルポートにシリアルマウスを使用したときには、内部のスティックポインタを禁止設定にしないと、使用するプログラムによってはうまく動作しない場合があります。このようなときは、システムコンフィグレーションプログラムを呼び出して、StickPointerをDisableにしてください。5章の説明をお読み下さい。

電源

*WinBook Pro*コンピュータは、専用ACアダプタまたは、充電可能なバッテリパックによって動作します。

ACアダプタが装着されてから約2時間30分で、バッテリパックは満充電の状態になります。

バッテリパックの使用方法の詳しい内容は4章をお読みください。

*WinBook Pro*コンピュータはこのほか内部にリチウム電池を装着しています。この電池は*WinBook Pro*の時計、カレンダとシステムコンフィグレーション内容を保持するために使用されています。

マイクロコンピュータシステムについて

WinBook Proコンピュータは、80486DX4マイクロプロセッサを搭載しています。クロック速度は選択できます。遅いクロックは電池の使用時間をより長くするために選択することができます。
一時的にクロックスピードを選択することができます。単に<Fn>+<T>を押してください。（システムは常に速いクロックスピードで動作します。<Fn>+<T>を押すことで遅いスピードに落とすことができます。もう一度<Fn>+<T>を押すと速いクロックスピードに戻ります。）

コンピュータをスタートさせる

コンピュータをオンする前に、周辺機器をすべて接続しておかなければなりません。周辺機器の解説については7章の説明をお読み下さい。
このセクションでは以下の段階を知ることができます。

・ソーテック*WinBook Pro*コンピュータを最初に使用するとき
・内部時計、カレンダの時刻、日付を設定するとき

■ここで必要なもの

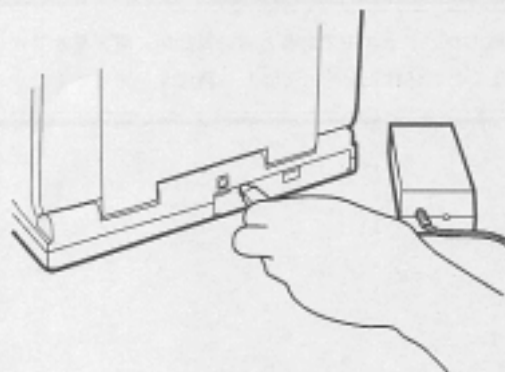
・*WinBook Pro*ノートブックコンピュータ
・専用ACアダプタ
・付属のACコード

■ACアダプタの接続

*WinBook Pro*コンピュータに添付されたACアダプタ以外は絶対に使用しないでください。

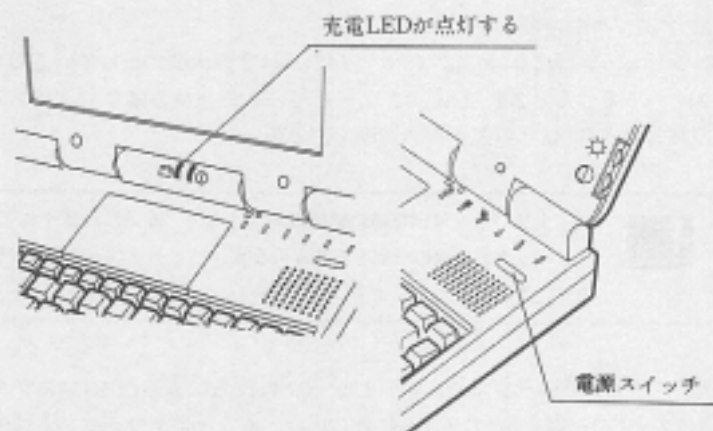
ACアダプタを接続します。
コンピュータの出荷時にはバッテリパックは空の状態になっているので、コンピュータをスタートさせるときにはACアダプタを用いることが必要です（バッテリパックについての詳しい内容は4章の説明をお読みください）。

バッテリパックは出荷時に絶縁紙をはさんで、本体に装着されています。4章のバッテリパックの説明の項目をお読みのうえ、バッテリパックを取り外して絶縁紙を取り去り、再び装着してください。

ACアダプタのケーブルを、コンピュータの後ろにあるDCINコネクタに差し込みます。
ACコードの一端をACアダプタに差し込み、もう一端をコンセントに差し込みます（100Vから240V単相の交流）。

■ACアダプタの仕様

入力電圧	100-240ボルト単相 交流 （自動電圧切り替え）
入力電流	1.0-0.5アンペア
周波数	50または60ヘルツ
出力電圧	19ボルト
出力電流	2.22アンペア
動作温度範囲	5-35℃

■コンピュータの電源を入れる

コンピュータをまだ開けていない場合は、コンピュータのカバーの両脇にある突起をコンピュータの前に向かってスライドさせながら、カバーを持ち上げ開いてください。
バッテリパックがコンピュータにすでに装着されている場合は、コンピュータの中央奥の
□ のLEDがオレンジ色に点灯します。この点灯は、バッテリパックが装着され、充電が行われていることを示します。（4章の充電の項目も併せてお読みください。）
キーボードの右側上部にある電源スイッチを押して、はなします（同じ動作で、コンピュータの電源をオフさせることができます）。

HDDまたはFDDがアクセス中であるときには絶対に電源をオフさせないでください。電源をオフしたあとは少なくとも15秒以上待ってから、再度オンさせてください。

■最新情報をよむ、バックアップを取る

数秒後、システムは自己診断機能を自動的に走らせ、その結果を画面に表示します。その後システムは以下のような"ようこそメッセージ"を表示します。
この状態でLCD右側にあるノブを回して、コントラストと輝度を見やすいように調整してください。

> ようこそ
>
> *WinBook Pro*をお買い求めいただきまことにありがとうございました。
> わたしたちのコンピュータを御利用になることでお客様の仕事、生活が一層発展されることを期待しています。
>
> 株式会社ソーテック
>
> なにかキーを押すと引き続きバックアップディスケットの作成の作業に移ります。
>
> バックアップ作業後、以下のようタイプするとユーザーズガイドに記されていない、最新の情報を知ることができます。
>
> C¥>README<Enter>

システムのハードディスクに標準出荷として格納されているプログラム、データの内容は万が一のときのためディスケットにバックアップがとれるようになっています。
メッセージにしたがって最初にバックアップを取っていただくことを強くおすすめします。

■内部カレンダ、時計を設定する

*WinBook Pro*コンピュータは内部に時計、カレンダ機能を持ち、常時これが時を刻んでいます。この情報はデータファイルを作成したり、変更したときなどに利用されます。
一番最初にコンピュータをスタートさせたときには日付･時刻は合っていません。日付･時刻を設定するにはDOSコマンドのDATEとTIMEを使用してください。（システムコンフィグレーションにて日付･時刻を合わせることもできますが、DOSコマンドを使用したほうがより簡単です。）
以下の各ステップは内部時計･カレンダを設定する方法を示しています。DOSプロンプトにてはじめてください。

1) DATEとタイプして<Enter>を押してください。

現在の日付が表示され、あなたが新しい日付をタイプするのを待っています。

-英語DOS-

Current date is Thu 05-23-1995

Enter new date (mm-dd-yy):_

-日本語DOS-

現在の日付は 1995-05-23 (火) です。

新しい日付を入力してください。(yy-mm-dd):

正しい日付が表示されている場合には<Enter>を押して、本コマンドを終了させてDOSプロンプトに戻します。もしシステムの日付を変更するなら、

2) 現在の日付をタイプして<Enter>を押します。

月、日付には1または2ケタの数字を、年には西暦下2ケタの数字をタイプしてください。それぞれの間にはハイフンをタイプしてください。

3) TIMEとタイプして<Enter>を押してください。

現在の時刻が表示され、新しい時刻をタイプするのを待っています。

-英語DOS-

Current time is 11:23:02.06

Enter new time:

-日本語DOS-

現在の時刻は 11:23:02.06

新しい時刻を入力してください。

正しい時刻が表示されている場合には<Enter>を押して、本コマンドを終了させてDOSプロンプトに戻します。システムの時刻を変更するなら、

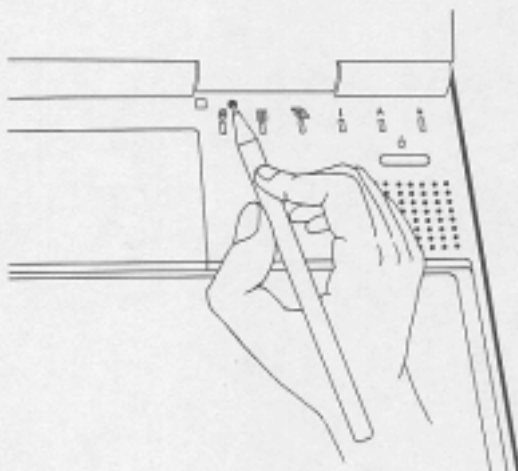
4) 現在の時刻をタイプして<Enter>を押します。

時間、分、秒をそれぞれ2ケタの数字でコロン":"で区切りながらタイプしてください。(24時間表記)

急にシステムの画面が消えて驚かれるしまうことがあるかもしれません。多分あなたはバッテリで動作させていてシステムが自動的に省電力状態になったところをご覧になったのだと考えます。キーを何か押せばまた元の画面に復帰するはずです。省電力モードの設定のしかた、使い方については4章のバッテリで動作させる、5章のシステムコンフィグレーションの項目をお読みください。

コンピュータをリセットする

コンピュータが何の反応も示さなくなってしまったときには、システムの電源をオフにし再度オンにする代わりに、リセットをかけることができます。ただし、リセット操作はシステムがサスペンド状態にあるときも含めてすべてのRAMの一時的な記憶をすべて消去するので重要なデータはあらかじめディスクにセーブしておくことをおすすめします。
MS-DOSにおいては、キーボードの<Ctrl>と同時に<C>を押す、または<Break>を押すことにより、プログラムの実行を中止し、MS-DOSのコマンドプロンプトに戻ることができます。エラーがおきてしまった場合、リセットをかける前にこの方法を一度試してみてください。

リセット以外のいかなる方法によってもプログラムから抜け出すことができない場合をのぞいて、リセットをかけないでください。一部のプログラムには新しいデータをセーブする場合、正規の方法でプログラムを終了させなければならないプログラムがあります。このようなプログラムを使用していてリセットをかけると、データの消失につながる場合があります。

キーボードからコンピュータをリセットする場合は、<Ctrl>+<Alt>+<Del>の各キーを同時に押してください。
もし、キーボードが反応しない場合には、リセットボタンを押してください。まちがえてリセットがかからないように、このスイッチは意識的に押しにくいように設計されています。このスイッチを押す場合にはボールペンの先かクリップをまっすぐにしたようなもので押してください。リセットをかけると画面は一時的に表示が消え、その後コンピュータはMS-DOSを再びロードします（ハードディスクまたはフロッピーディスクにMS-DOSが書き込まれている場合）。

ディスクドライブ・2

●この章では

・ハードディスクドライブの手入れと取り扱い方

・フロッピーディスクドライブの手入れと取り扱い方

ソーテックWinBook Proコンピュータには2つのディスクドライブが装着されています。

・2.5インチ着脱可能なハードディスクドライブ（HDD）

・3.5インチ3モードフロッピーディスクドライブ（FDD）

ハードディスクドライブ

WinBook Proコンピュータに装着されているハードディスクドライブは、工場組立時にすぐに使用できるようにパーティションとフォーマット処理がされています。また¥DOS、¥Windows、と名付けられたサブディレクトリが作成され、DOSやWindowsのファイル類がすでにコピーされています。

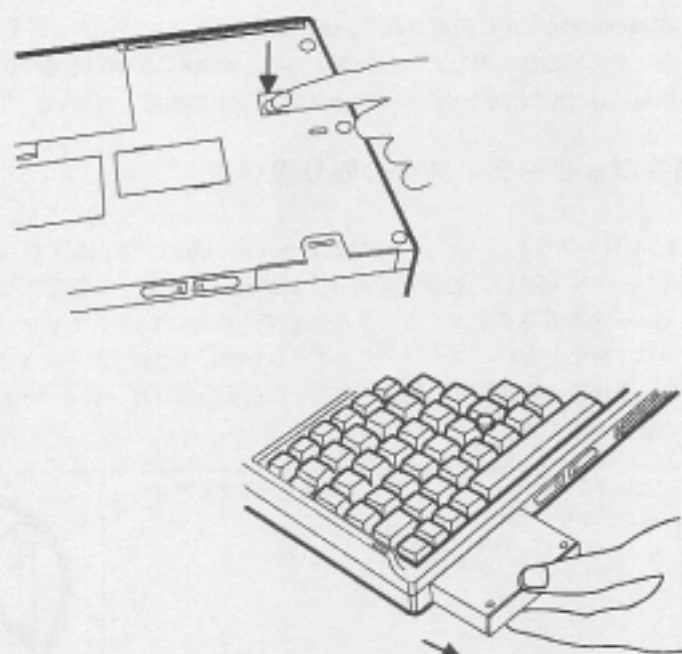
WinBook Proコンピュータのハードディスクドライブは取り外しが可能です。将来さらに大容量のハードディスクドライブが用意されたときに交換することが可能です。また、別にハードディスクドライブを用意し、そこへ各種のアプリケーションを用意して必要に応じて交換したり、フロッピーディスクを経由してデータをコピーし、そのハードディスクドライブを安全のため別の場所へ保管しておく事なども可能です。

ハードディスクドライブをなげたり、落としたりしてはいけません。また振動や、磁界の発生するもの（テレビやステレオのスピーカなど）の近くにおかないでください。

■ハードディスクを取り外す

ハードディスクを取り外す、あるいは装着する前に必ずコンピュータの電源がオフになっていることをお確かめください。サスペンド状態でもいけません。またソーテックの純正ハードディスクをご使用ください。

■ハードディスクドライブ（以下HDD）を取り外すには

コンピュータの電源をオフにしてください（コンピュータはサスペンド・レジューム状態ではいけません。詳しくは4章の説明をお読みください）。コンピュータ底部にあるHDDカートリッジ取り出しボタンをしっかり押し込んでください。さらにもう一方の手でHDDの下部の前面側を持ちながら、前に向かってゆっくり引き出します（このときHDDを落としたりしないよう十分注意してください）。

■ハードディスクドライブを装着する

ハードディスクドライブ（HDD）を装着するには

1) コンピュータの電源をオフにする（サスペンド･レジュームモードではいけません。詳しい内容は4章の説明をお読みください）。

2) HDDの装着スロットにHDDを静かにスライドさせながら挿入します。底面のHDDイジェクトボタンがたいらになるまで、ゆっくり押し込みます。HDDは図に示すような方向にしか装着できません。HDDが簡単に挿入できないようなときには決して力をこめずに、もう一度正しい向きにHDDの向きを入れ替えてください。

ドライブを装着し終えたら、システムを使用する前に必ずシステムコンフィグレーションを行わなくてはなりません。ハードディスクに関するセットアップは自動的に行うこともできますし、自分で設定することも可能です。詳細の設定方法については5章のHard Diskの項目をお読みください。

フロッピーディスクドライブ

WinBook Pro本体に内蔵されている3.5インチフロッピーディスクドライブユニットは、3モードにて動作可能なため720KB/1.2MB/1.44MBにて動作します。詳しい使用方法につきましてはMS-DOS6.2/Vのユーザーズガイドをご参照ください。

■フロッピーディスクの取り扱い方

3.5インチフロッピーディスクはたいへん弱いものです。取り扱いにあたっては十分注意を払ってください。装着してあるフロッピーディスクを使用しつづける場合でも、コンピュータの電源をオフするときには必ずその前に3.5インチフロッピーディスクドライブ（以下FDDと省略）のイジェクトボタンを押してフロッピーディスクを取り出し、保存に適当な場所に保管してください。以下に示すのはフロッピーディスクの取り扱いに関しての注意事項です。

テレビや電機モータのような、電磁気を発生する物のそばにおかないでください。	
特に車の中のような直射日光にあてたり、高温の場所におかないでください。湿度の高いところにおかないでください。	
内部の記録メディアに傷を付けるおそれがあるためシャッタを開けないでください。	
ラベルを貼りつける場合には、専用のエリアにお貼りください。（一段へこんでいます。）また、別のラベルを貼るときには重ねて貼らず、前のラベルをはがしてください。	

■データ書き込みを禁止する

通常、FDDに装着されているフロッピーディスクは、データの書き込みも読み出しもできるようになっています。そのフロッピーディスクのデータを上書きあるいは消去したくな

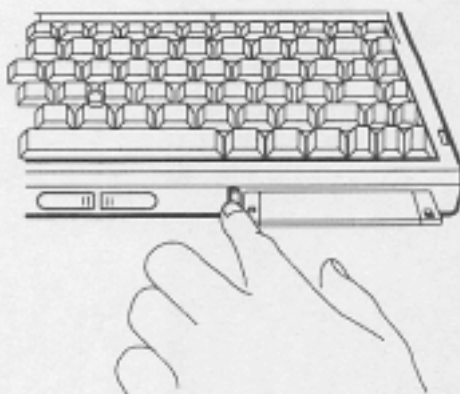
いならば、そのフロッピーディスクを、書き込み禁止にすることができます（ライトプロテクトする）。
ライトプロテクトを行うにはフロッピーディスクの裏側を上にします（フロッピーディスクの中心に金属の円盤が見えるほうが裏側です）。一方のカドに下図のようなプラスチックの移動させることのできるノッチがあります。

書き込み可能状態

書き込み禁止状態

書き込み禁止ノッチが“上側”になっているとき（上図の左がわの状態）は、フロッピーディスクをフォーマットしたり、書き込んだり、その上のファイルを消去することができます。
書き込み禁止ノッチが“下側”になっている（四角い穴が開いている状態）と、フロッピーディスクのデータを消去したり、上書きしたり、どんなデータも追加することはできません。

■フロッピーディスクのFDDへの出し入れ

フロッピーディスクを装着する場合は、ラベル面を上側にし、シャッタのあるほうをさきにFDDの中に挿入します。フロッピーディスクを正しく装着できた場合は、FDDイジェクトボタンが飛び出します。フロッピーディスクを取り出すときにはFDDイジェクトボタンを押して、フロッピーディスクを取り出します。

■3モードFDDの使用方法

*WinBook Pro*はMicrosoft・MS-DOS・Version6.2/Vの3モード対応ユーティリティ（1024FD）をサポートしています。
汎用的なDOS/V機にて使用可能なフォーマット720KBと1.44MBに加えて1.2MBフォーマットのフロッピーディスクの読み書きを可能にします。
*WinBook Pro*を3モード対応にするには2通りの方法があります。

1. CONFIG.SYSに組み込む方法

CONFIG.SYSに下の1行を追記します。

```
DEVICE=C:¥DOS¥1024FD.EXE
```

2. MS-DOSプロンプト上にて組み込む方法

DOSプロンプト状態にて下記のコマンドを入力します。

```
1024FD<Enter>
```

1024FDユーティリティは1.2MBのフォーマットディスクのリード/ライトのみをサポートするもので、フロッピーディスクのフォーマットは行えません。また、フロッピーディスクからの起動も行えません。

1024FDが組み込まれている状態の時WindowsのDOSプロンプトモードにてCOPYコマンドを使用する場合には、ベリファイオプション /V は使用しないでください。Windowsが異常動作して、FDDデータが破壊されたり、実行中のアプリケーションが強制終了される可能性があります。

キーボード・3

●この章では

・キーボードの各部

・キーボードを使う

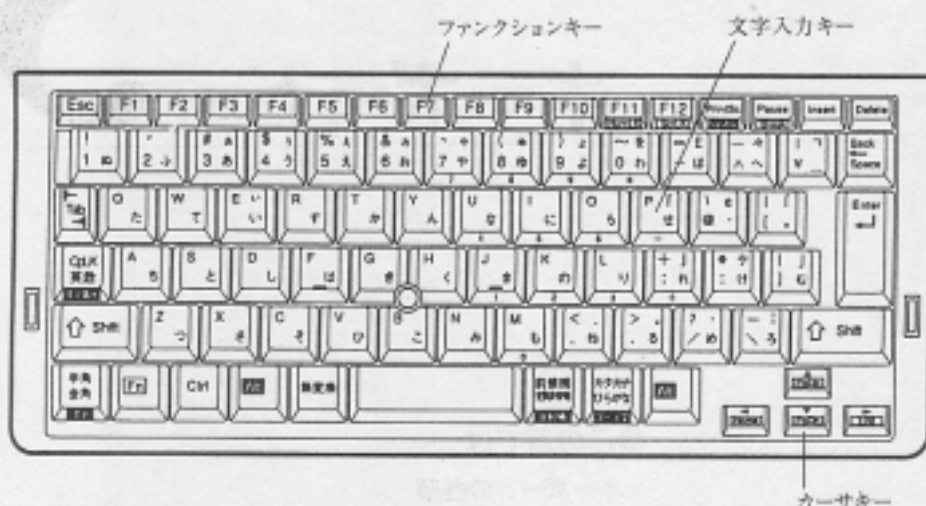
・エンベデッドキーを使う

・システムファンクションキー
(システムの機能活用のための特別キー組み合わせ)

・日本語入力

ソーテックWinBook Proとコミュニケートするために、キーボードは大切な役割をはたします。
ソーテックWinBook Proのキーボードは、拡張日本語キーボード(106キー)と互換性を持っています。この章ではこのキーボードを使いこなすための方法を説明します。

キーボードの各部

以下の図は*WinBook Pro*コンピュータのキーボードをあらわしています。

以下の各部分はそれぞれ次のように機能します。

■ファンクションキー（F1...F12）

各プログラムにより、これらのキーはファイルをセーブ、ロードしたり、オンラインヘルプを画面に表示させたり、プログラムを終了させたりします。DOSにおけるこれらのキーの機能は（その他にプログラムを動作させていない状態で、）MS-DOSのマニュアルに説明されています。

■文字入力キー

英数字またはカナ数字キー（アルファニューメリックキー）ともよばれます。これらのキーは、この章で説明する使い方をのぞき、ちょうどタイプライタと同じ使い方をします。

■カーサキー

カーサはタイプする文字が次に表示される場所を示す、画面上の小さなシンボルです。DOSとDOSのアプリケーションにおいてはそれは通常点滅する下線（アンダーライン）です。Windows、またそのアプリケーションにおいてはそれは一般的に"カーソル" と呼ばれ、たての線として表示されます。アプリケーションプログラムはカーサキー（またはマウス）を使用してファイルの中身を画面に表示し、処理を行いたい場所を指定するのに使用されます。

■その他のキー

いくつかのその他の機能キーについて、この章の中で説明されています。
この章の終わりにシステムの機能について説明を行っています。このセクションではマイクロプロセッサのスピードの変更や、システムコンフィグレーションをよびだすなどの操作についてのキー組み合わせ（キーコンビネーション）を一覧にしています。

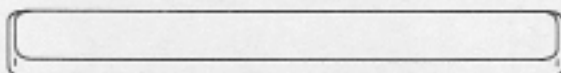
キーボードを使う

多くのキーの機能は、使用しているアプリケーションプログラムによって変わってきます。このセクションではほとんどのMS-DOSコマンドで共通であり、また一般的なアプリケーションプログラムでも通用する使い方を解説しています。
このキーボードはDOS/V上でのキー操作に対応しています。
日本語入力に関する詳しい内容は"日本語入力" の項目をお読みください。

■文字入力キー群

文字と数字をタイプするのにこれらのタイプライタキーを使用します。ただし、文字 "l" と数字 "1" 文字 "O" と数字 "0" を混同しないように注意してください。コンピュータはこれらの文字と数字は"違うもの"として区別します。間違えて入力するとコンピュータの処理結果として期待とちがったものになります。

■編集キー

編集に使用するキー群は一般的なワープロ、タイプライタでの使い方と共通です。

<スペースバー>キーを押すことにより、現在のカーサのある場所にスペースを挿入し、カーサを1スペース分右に移動します。

通常は<Tab>（タブ）キーを押すことにより、カーサを次のTabストップまで移動させます。一部のプログラムでは、Tabキーを押すことにより、画面上の次の項目に移動するように使われることもあります。<Shift>+<Tab>によってカーサを1つ前のTabストップに移動させることができる場合もあります。

<Enter>（エンター）キーを押すことによる動作は各アプリケーションによりかなり異なります。アプリケーションによっては、タイプライタのキャリッジリターンと同じ動作をする場合もあります。つまり、カーサは1行下にさがり、画面の一番左に移動します。その他のケースでは、<Enter>はコンピュータで動作しているプログラムの動作を決定させるように使われます。たとえばEnterにより、新しい画面を表示させたり、書類をプリンタに出力したり、などです。

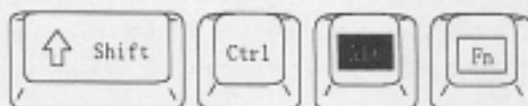
ほとんどのプログラムで、Backspace（バックスペース）キーはカーサを1スペース分左に動かし、その場所にあった文字を消去します。

<Del>（デリート）キーはふつうはカーサのあるところの文字、または右側の文字を消去し、右側の残りの文字列を左に移動させます。

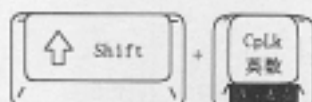
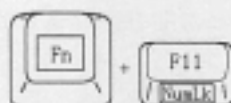
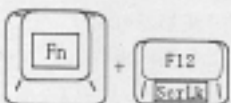
使っているアプリケーションプログラムがカーサ移動機能を持っている場合、ソーテックWinBook Proのキーボードはカーサを動かすために2つの方法を提供しています。

・右下にある、4つのカーサ移動キーを使う
・<Fn>+<PgUp>、<PgDn>、<Home>、<End>にて移動する
（多くのアプリケーションプログラムはまたカーサを移動させるためにマウスまたはスティックポインタを使うこともできるようになっています。）

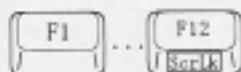
各キーはそのキーに印刷されている矢印の方向に画面上のカーサを移動させるのに使用します。ほとんどのアプリケーションにおいて、これらのキーを用いてカーサを移動させても画面の内容は変化しません。
また<Fn>+カーサキーにて画面のページ切り替えのキーの機能として使用することができます。それぞれのキーの前面に四角で囲んであるように機能します。

■シフトキーなど

これらのキーはその他のキーと組み合わせて使用されます。ほとんどのアプリケーションではこれらのキー単体を押しても何の動作もできません。こういったキーとして<Shift>（シフト）、<Ctrl>（コントロール）、<Alt>（オルタネート、オルトとも言います。）、<Fn>（エフエヌキー、ファンクションキー（F1からF12）と区別するためこのように言います。）があります。使用する場合はその他のキーと共に押すようにします。たとえば<Ctrl>+<C>を入力する場合は、<Ctrl>を押しながら<C>のキーを押します。
ほとんどのプログラムでは、英数モードにて<Shift>はちょうどタイプライタのシフトキーと同じ使い方をします。つまり、大文字を入力したいときにはその文字のキーと共に<Shift>を押します。しかしながら、CAPSロックの状態にあるときには<Shift>と共に文字キーを押すと小文字が入力されます。また四角で囲まれたキー<NumLk>、<ScrLk>,<Home>,<End>,<PgUp>,<PgDn>は<Fn>と組み合わせることで機能させます。
またフルキーボード（106キー）の右コントロールキーは<Fn>+<Ctrl>にて入力できます。

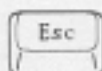
■トグルキーのなかま

トグルキーと呼ばれるこれらのキーは、1回押すことにより、それぞれのキーも持つ2つの状態を切り替えることができます。ステータスLEDは3つの標準トグルキーの現在の状態を表示してくれています。各LEDが点灯しているときはその状態が有効になっていることを示します。また日本語入力特有のトグルキーについては、"日本語入力"にて詳しく説明しています。

英数モードにてShiftを使用せずに大文字(A-Z)を入力したいときには、<Shift>+<CpLk>を押してください。CAPSロックがオンのときに<Shift>を使うと小文字が入力されます。CAPSロックはそのほかのシフト可能な文字に対しては影響を出しません。たとえば4をCAPSロックがオンのときに押すと4が入力されます。$は入力されません。

NUMロックをオンにすることによって、エンベデッドニューメリックキーパッドを使用できる状態にします。ニューメリックキーパッドの使い方についてはこの章の後半にある、"エンベデッドキーパッドを使う"の項目をお読みください。

一部のプログラムでは、SCRLロックによってカーサの制御に関する動作が変わったりします。たとえば、 はカーサを一行下に移動させるのではなく、カーサを動かさずに表示内容を1行分上に移動させるように変化します。

文字をタイプすると、通常はカーサのある場所に文字がインサートされて、その他の文字は右に押されて移動してゆきます。いくつかのプログラムでは"タイプオーバ(上書き)"のモードを提供しています。この場合、タイプされた文字はすでにあるカーサの上にある文字を書き換えていきます。このようなプログラムの場合、一般的にこの<Insert>キーを使ってタイプオーバ(上書き)モードとインサートモードを切り替えることができます。通常はこの

場合、インサートモードなのかどうかを示すため画面に表示が現われます。

■ファンクションキー

ファンクションキーはキーボードの一番上の行にあります。これらのキーの機能はあなたの使用しているプログラムにより決められます。
MS-DOSでは、たとえば<F3>を押すことにより直前にDOSプロンプトであなたがタイプしたコマンドをもう一度表示させることができます。<Enter>を押すことでもう一度このコマンドを実行することができます（<Backspace>にて消すこともできます）。

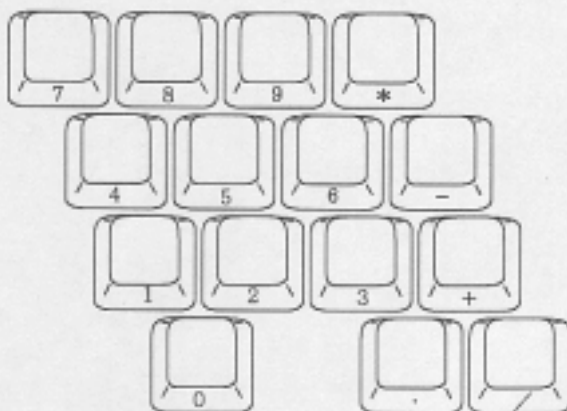
■エスケープキー

<Esc>キーは"エスケープ"キーとよび、それぞれのアプリケーションプログラムによっていろいろな目的に使われます。いくつかのプログラムでメニューを表示しているときに<Esc>を押すと現在のメニューをぬけだし、一つ段階の高いメニューに移ることができます。
DOSにおいてはコマンドをタイプしたあとに（<Enter>を押す前に）<Esc>を押せばバックスラッシュ（日本語モードでは¥）を表示させてこのコマンドをキャンセルすることができます。ここで<Enter>を押せば、DOSプロンプトに戻ることができます。

エンベデッドキーを使う

キーボードの中で、エンベデッドキーパッドの部分は2つの違った使い方があります。

・通常の使い方（J,Kのキーなど）
・数字キーとして使う（0-9や*、ーなど）ほとんどの場合文字入力キーとしてこれを使う事になるでしょう、けれども書類やスプレッドシートの中で、たくさんの数値を入れたい場合にはNUMロックモードにしてこのエンベデッドキーを使うことができます。それではそのモードについて説明します。

数値データの入力

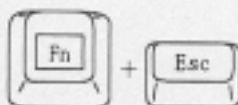
エンベデッドキーパッドを数値キーとして使用することにより、数値データの入力を簡単にすることができます。NUMロックモードにするには<Fn>+<Num>を押します。ステータスLEDのNum LockマークのLEDが点灯する（1章を参照）ことで、数値が入力できることを示しています。

システムファンクションキー（システム制御キー）

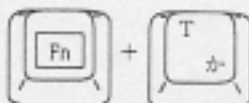
WinBook Proコンピュータのキーボードにはいくつかのコンピュータの動作を設定するための重要な機能があります。

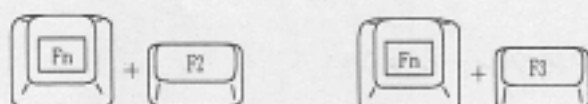
■システムコンフィグレーション

<Ctrl>+<Alt>+<S>を押すことで、システムコンフィグレーションプログラムをスタートさせることができます。システムコンフィグレーションプログラムにより、システムの状態を決めるための設定を行うことができます。さらに詳しいことについて、は5章の"システムコンフィグレーション"の項目をお読みください。

システムコンフィグレーションをスタートさせたあとは、必ずシステムをリスタートしなければなりません。アプリケーションプログラムではデータをセーブし、プログラムを終了させてください。そうでない場合データの消失することがあります。

■パワーマネージメント

<Fn>+<Esc>を押すことで、バッテリの使用時間を延長させるためのサスペンド･レジューム、スタンバイの機能を設定するパワーマネージメント（PM）メニューを呼び出すことができます。さらに詳しいことについては5章の"システムコンフィグレーション"の項目をお読みください。

■クロックスピードの選択

<Fn>+<T>を押すことで、WinBook ProコンピュータのCPUのスピードを高い速度（FAST）から低い速度（SLOW）に切り替えることができます。低い速度にすることでよりバッテリの消費を抑えることができます。この選択を行うたびにクロックのスピードが切り替わります。

■サウンド音量調整

<Fn>+<F2>を押すと、1段階サウンドの音量をアップできます。<Fn>+<F3>を押すと逆に下げることができます。使用するアプリケーションによっては、この設定を独自に変更するものがあります。その場合はアプリケーション中の音量設定を使用して設定し直してください。
また、Windowsでの音量の調整は、このシステムファンクションキーの代わりにサウンドアプリケーションの中のボリュームコントロールプログラムを使用してください（6章サウンド機能を使うをお読みください）。

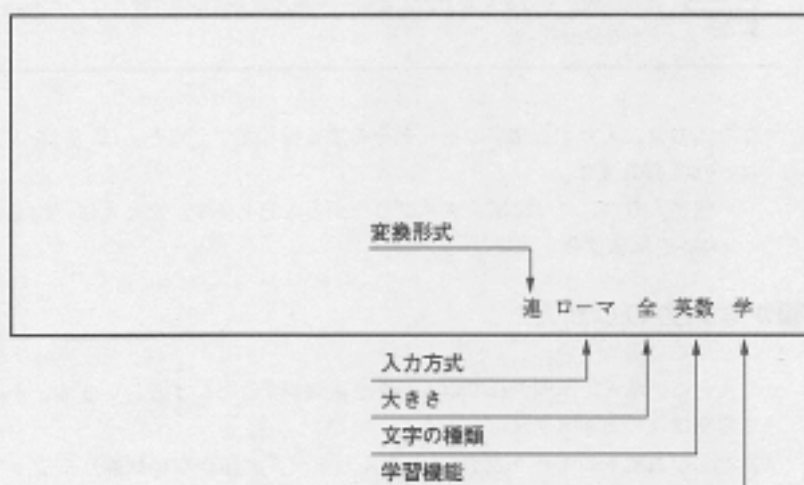
■表示切り替え

<Fn>+<F1>を押すと現在の表示装置を"LCDのみ"、"CRTのみ"、"LCD-CRT"同時の順に切り替えることができます。CRTを接続していないとこの切り替えは有効になりません。
なお、同時表示、LCDのみの各表示方式は、LCDで表示できる最大の解像度で表示しているときだけサポートされます。

日本語入力

日本語MS-DOS上にて文字各種を入力する方法について説明します。
(Microsoft・MS-DOS・Version6.2/V)

■文字をタイプするには

ここでは、ひらがな、カタカナ、アルファベット、数字、記号などの入力方法について説明します。
画面の下方に現在の入力モードを表示しています。準備として<Alt>+<漢字>を押し日本語入力モードにしてください。解除する方法も同じです。

1. 文字の種類

入力できる文字の種類は、大きく分けてかな カナ 英数 の3種類あります。

表示	モード	切替キー（トグル）
かな	ひらがななどの入力モード	<ひらがな>
カナ	カタカナなどの入力モード	<Shift>+<カタカナ>
英数	英数等の入力モード	<英数>

2. 大きさ

入力できる文字の大きさは半角、全角の2種類あります。

表示	モード	切替キー（トグル）
半	半角入力モード	<半角/全角>
全	全角入力モード	<半角/全角>

半角文字の幅は全角文字の半分です。またひらがなと漢字には「全角」しかありません、

半角モードのときでも全角にて入力されます。

3. かな入力方式とローマ字入力方式

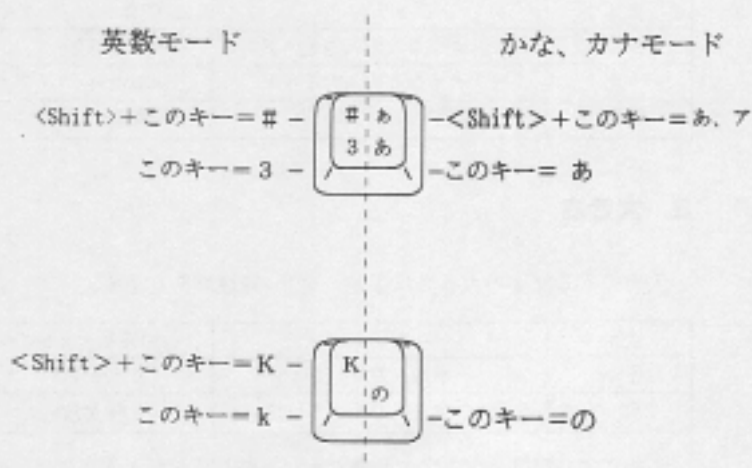
入力方法は2種類あります。

表示	モード	切替キー（トグル）
R	ローマ字入力モード	<Alt>+<ローマ字>
なし	かな入力モード	<Alt>+<ローマ字>

Windows上でのかな入力方式とローマ字入力方式の切り替えは、<Ctrl>+<Shift>+<ひらがな>で行います。

かな入力は、入力する文字のキーをそのまま押します。たとえば「や」を入力したい場合は<や>を押します。
ローマ字入力は、ローマ字をタイプしながら入力します。たとえば「や」を入力するには<Y><A>の順番で押します。

■かな入力のしかた

かな入力は、キーに印刷されているかなを直接押すことにより行います。その基本的な方法を説明は次のとおりです。
準備として画面下のモード表示が「かな入力モード」（Rがない状態）になっているかを確かめます。ローマ字入力モードになっている場合は、<Alt>+<ローマ字>にてかな入力モードにします。
基本的にキーの右側の文字はかな、カナモードのときに入力でき、左側の文字は英数モードのとき入力が可能になります。またキーの下側はそのまま、キーの上側は<Shift>を押しながら押すと入力できます。

1) ひらがな

<ひらがな>を押して、画面下のモード表示を「かな」にし、直接そのかなキーを押して入力します。小さなひらがな（ぁ、ぃ、ぅ、ぇ、ぉ、っ、ゃ、ゅ、ょ、を）の場合は、<shift>を押したままそのキーを押します。

2) カタカナ

<Shift>+<カタカナ>を押して画面下のモード表示を「カナ」にし、直接そのかなを押し入力します。小さなカタカナ（ァ、ィ、ゥ、ェ、ォ、ッ、ャ、ュ、ョ、ヲ）の場合は<Shift>を押したままそのキーを押します。

3) 数字

<英数>を押して、画面下のモード表示を「英数」にします。続いて、入力したい数字キーを押します。

4) アルファベット小文字

<英数>を押して、画面下のモード表示を「英数」にします。続いて、入力したいアルファベットキーを押します。

5) アルファベット大文字（1文字）

<英数>を押して、画面下のモード表示を「英数」にします。続いて、<Shift>を押しながら入力したいアルファベットキーを押します。

6) アルファベット大文字（連続）

<英数>を押して、画面下のモード表示を「英数」にします。続いて、<Shift>を押しながら<英数>を押すとロックがかかります。そして入力したいアルファベットキーを押します。

7) かな記号（『、』、ヶ、。、、、・、£、¢など）

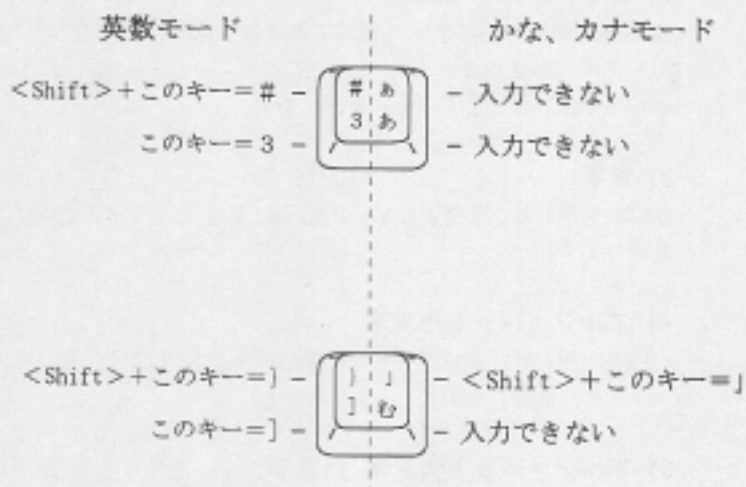
<ひらがな>を押して、画面下のモード表示を「かな」にします。続いて、入力したいかな記号キーを押します。

8) 英記号（!, @, #, $, %, ^, &, * など）

<英数>を押して、画面下のモード表示を「英数」にします。続いて、入力したい英数記号キーを押します。

3章 キーボード

■ローマ字入力のしかた

準備として画面下のモード表示がローマ字入力モード（Rが表示されている）になっているかを確かめます。かな入力モードになっている場合は<Alt>+<ローマ字>でローマ字入力モードにします。

基本的にキーの左側の文字は英数モードで有効になり、右側はかな記号のみ有効になります。

1) ひらがな

<ひらがな>を押して画面下のモード表示を「かな」にし、入力したい文字のローマ字をタイプします（例：「や」なら<Y><A>）。小さなひらがな（ぁ、ぃ、ぅ、ぇ、ぉ、っ、ゃ、ゅ、ょ）の場合はそのローマ字の前に<x>をタイプします（例:「ゃ」なら<X><Y><A>）。

2) カタカナ

<カタカナ>を押して、画面下のモード表示を「カナ」にして入力したい文字のローマ字をタイプします（例：「ヤ」なら<Y><A>）。小さなひらがな（ァ、ィ、ゥ、ェ、ォ、ッ、ャ、ュ、ョ）の場合はそのローマ字の前に<x>をタイプします（例:「ャ」なら<X><Y><A>）。

3) 数字

「かな」、「カナ」、「英数」いずれのモードであっても入力することが可能です。

4) アルファベット小文字

<英数>を押して、画面下のモード表示を「英数」にします。続いて、入力したいアルファベットキーを押します。

5) アルファベット大文字（1文字）

<英数>を押して、画面下のモード表示を「英数」にします。続いて、<Shift>を押しながら入力したいアルファベットキーを押します。

6) アルファベット大文字（連続）

<英数>を押して、画面下のモード表示を「英数」にします。続いて、<Shift>を押しながら<英数>を押すとロックがかかります。そして入力したいアルファベットキーを押します。

7) かな記号（「、」、ヶ、。、・、£、¢など）

<ひらがな>を押して、画面下のモード表示を「かな」にします。続いて、入力したいかな記号キーを押します。

8) 英記号（!, @, #, $, %, ^, &, * など）

<英数>を押して、画面下のモード表示を「英数」にします。続いて、入力したい英数記号キーを押します。

■漢字を入力する

Microsoft・MS-DOS・Version6.2/Vの添付マニュアル"日本語入力ガイドMS IME"に入力方法が記載されていますので、ご参照願います。

■コード入力モード

Microsoft・MS-DOS・Version6.2/Vの添付マニュアル"日本語入力ガイドMS IME"に入力方法が記載されていますので、ご参照願います。

バッテリ・4

●この章では

・バッテリパックを充電する
・バッテリパックを使う
・バッテリパワーを節約する
・バッテリパックを交換する

ソーテックWinBook Proコンピュータは100-240V単相の交流電源からACアダプタを使って駆動するか、または内蔵の充電式バッテリパックにより、駆動する事ができます。この章ではACアダプタとバッテリ電源についての一部の重要な説明と消費電力の低減（パワーセーブ）の方法を含め解説しています。"はじめるまえに"にある各注意などをご理解頂いていないようでしたら、お読みください。

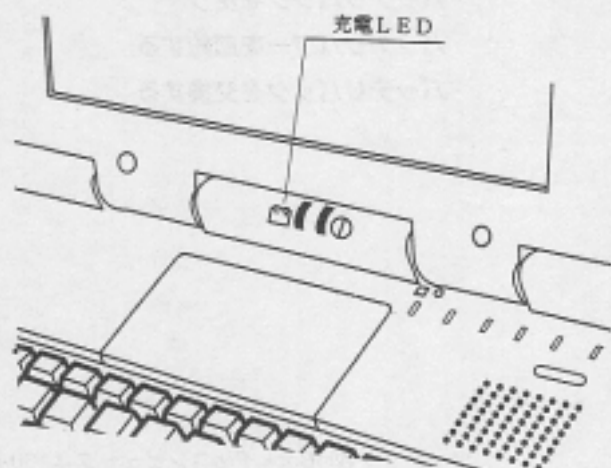
バッテリで動作させる

システムが出荷されるときには、内蔵のバッテリパックは充電されていません。バッテリでシステムを動作させる前に、バッテリパックの充電を完全に行ってください。

■バッテリパックを充電する

コンピュータにバッテリパックを装着しACアダプタを接続し、充電LEDが緑色点灯状態になるまで、そのままにしておきます。電池を充電するには約2時間30分かかります。充電はコンピュータの使用中でも行われます。

■充電LED

LCD画面の下部のまんなかにある充電LEDは、現在のバッテリパックの状態を示しています。もし完全に充電されていればLEDは緑色で点灯しています。オレンジ色で点灯していればバッテリパックは充電中であることを示しています。バッテリパックが入っていない、またはバッテリパックが入っていてもACアダプタが接続されていない場合は消灯しています。

LEDの点灯	状態
オレンジ色点灯	バッテリパックは充電中で完全に充電はされていません。
緑色点灯	バッテリパックは満充電になっています。
消灯	ACアダプタが通電されていない状態、またはバッテリパックが正しく装着されていないか、それ以上充電を継続できない状態です（充電に適した温度条件を超えているなど）。

■バッテリパックの充電モード

WinBook Proコンピュータではバッテリパックはシステムがパワーオフでもパワーオンのときでも急速充電を行います。

■バッテリの放電の状態を知る

バッテリパックの使用中にバッテリの残量が少なくなった場合（ローバッテリ）、以下の2つの方法でコンピュータが警告を発します。

・電源LEDが緑からオレンジに変化する
・約16秒ごとに"ピッ"という音がする

これらの警告が発せられた場合には、すぐにコンピュータのデータをセーブし、ACアダプタでシステムをオフにして充電を行うか、バッテリパックを交換してください（この章の後半のバッテリパックの交換の項目をお読みください）。
また、パワーマネージメントメニューにおいてBattery Low:の項目がSuspendに設定されている場合、システムはバッテリの残量がたいへん少なくなったときに自動的にコンピュータの現在実行中のプログラムを停止し、サスペンド状態に入ります。Battery Low:の項目がWarn Only（警告のみ）になっている場合には、バッテリパックの容量がなくなった時点でシステムは電源がきれてしまいます。
システムの利用を継続される場合にはACアダプタを接続し、バッテリパックを交換してください。ACアダプタを接続、通電が確認されたのち、キーボードを押すか、電源スイッチを押してレジュームさせてください。

ローバッテリの状態のまま操作を継続すると、操作中のデータの消失あるいはプログラムファイルなどの消失を伴うおそれがあります。

■バッテリのパワーを節約する

コンピュータの使い方により、バッテリパックの使用時間は変化します。バッテリパックの電力を節約するために以下にいくつかのヒントを示します。

・LCDの照明も含めてWinBook Proコンピュータの各構成部品を使用しないときには電源を切ってしまう。
・パワー制御機能を活用する（5章に説明されています）。特にグローバルスタンバイモードでは消費電力を極めて少なくすることが可能です。
・サスペンド・レジュームモードを使用する。

また以下の行為は消費電力の増大を招きます。

・ハードディスクまたはフロッピーディスクをアクセスする。
・メモリを追加する（オプションRAMモジュール）。
・CPUにたくさん計算をさせる（頻繁に計算を行わせるプログラムを実行するより、エディタなどのプログラムのほうがより消費電力が少なくてすみます）。

4章 電源

■サスペンド・レジューム機能を使う

サスペンド・レジュームモードをパワーマネージメントメニューにて選択する（5章の"システムコンフィグレーション"の項目に説明されています。）ことにより、コンピュータをオフの状態にしてもサスペンド状態に維持させることができます。この機能を使うと、たいへん少ない電力で、現在使用中のオペレーティングシステム、アプリケーションをそのままの状態でメモリの中に保持させていくことができます。コンピュータをオンにすると、元の状態に復帰させる事ができます。
ただし、少量の電力でも長時間放置しておくとバッテリパックの電力は消費されているため、コンピュータを長時間サスペンド状態にしておくことはおすすめできません。

■バッテリパックを交換する

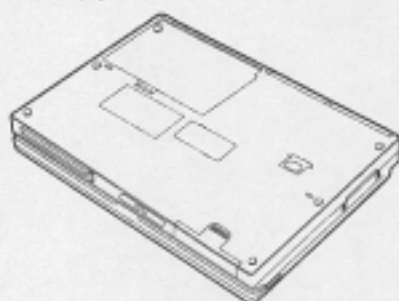
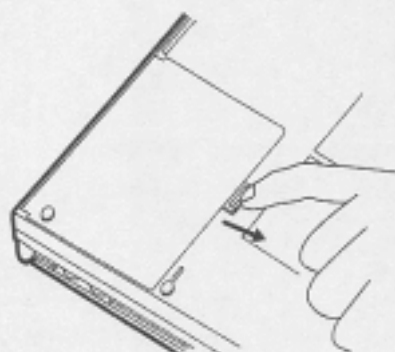
このセクションでは、どのようにしてバッテリパックを交換するかについて説明しています。

このコンピュータ専用のバッテリパック以外の電池を使用すると、爆発、火災の起るおそれがありますので十分ご注意ください。ソーテック純正のソーテック*WinBook Pro*コンピュータ専用バッテリパックをご使用ください。また、バッテリパックの分解、破壊、火中への投入、加熱、端子の短絡などは絶対に行わないでください。

コンピュータが動作している状態（サスペンド中も含みます）では、ACアダプタを接続してACアダプタから電源が供給されているときのみ、バッテリパックを交換することができます。

バッテリパックを交換する前に、電源LEDが黄色に点灯していることをお確かめください。緑またはオレンジの状態ではバッテリパックの交換はできません。もしこのような場合はコンピュータのデータをディスクセーブするか、ACアダプタをさしこんで、アダプタからの電源供給を行ってください。

バッテリパックの交換は以下のように行います。

1)コンピュータを裏返しにします。

2)バッテリパックの前にあるバッテリパック取り出しボタンを、コンピュータの前方に向かってスライドさせます（1章の各部の説明の項目をご覧ください）。

3)バッテリパックが少しだけ持ち上がりますので、そのまま静かにバッテリパックの前方向の縁を持ち上げて取り外します。

4)交換用のバッテリパックを装着します。バッテリパックの端子面がコンピュータの前面に向かう方向にして、バッテリパックの後ろ側の突起部を先に装着エリアにあわせてはめ込みます。そのあと前の部分を静かにはめてゆき、バッテリパック取り外しボタンがラッチするまで静かに押し込みます。

システムコンフィグレーション・5

●この章では

・システムコンフィグレーションについて
・システムコンフィグレーションをスタートさせる
・パワーマネージメントメニューをスタートさせる

ソーテック*WinBook Pro*コンピュータに組み込まれているシステムコンフィグレーションプログラムは、基本的な各種機能を確認したり、設定を変更したりするために使用されます。また、メモリの容量、オプションを着脱、CPUのスピードを変更、システムのセキュリティ、パワーマネージメントの設定変更などその他の目的にも使用されます。
この章ではシステムコンフィグレーションプログラムをスタートさせ、使うまでを説明します。

システムコンフィグレーションについて

WinBook Proコンピュータは、オフの状態でもいくつかの重要な情報を記憶しています。システムをスタートさせるとき、いつもこの情報がシステムに読み込まれます。システムコンフィグレーションプログラムは以下の項目を行うことができます。

・日付と時間を変更する。
・増設したオプションの状態を設定する。
・既存のハードウエアの機能を変更する。
・パスワードの設定・変更を行う。
・バッテリの使用時間を長くするため、パワーマネージメント（PM）機能を使う。

また、現在のシステムの設定状態を知るためにシステムコンフィグレーションプログラムを使うこともできます。システムコンフィグレーションを終了させるときには設定された内容をシステムに反映させるため、システムは必ずリブートされます。このとき以前にメモリ上に存在していたすべてのプログラム及びデータが消失しますので、ご注意ください。

システムコンフィグレーションをスタートさせる

システムコンフィグレーションプログラムはメモリの中に常駐しています。これをスタートさせるにはDOSプロンプト（つまりアプリケーションプログラムや、Windowsの実行中ではありません）で<Ctrl>+<Alt>+<S>を押します。システムコンフィグレーションメニューが以下のように現れます。
このメニューは一番上の行に示されるような各サブメニューにその目的に応じて分れています。

サブメニュー

```
 Standard  Preferences  VGA  Memory  PowerMgmt  Defaults  Exit
 ───SystemSoft SCU. Copyright 1983-1994 SystemSoft Corp.
                    01/29/1995        12:00:00

 ────Memory────                     ───Peripherals───
 Base Memory           640KB        COM Port A          COM1(3F8h)
 Extended Memory      7168KB        StickPointer            Enable
 Shadow Memory         128KB        LPT Port Address    LPT1(378H)
 Reserved Memory       256KB        Sound                   Enalbe
 Total Memory         8192KB        Coprocessor          Installed

 ────Drives────
   Diskette Drive A     1.44MB

                  Type  Cyls  Heads  SPT  LZone  Precomp  Size
   Hard Disk 1    Auto  1053   16    63     0       0     518

             ESC to exit - F10 to save changes
```

装着されているHDDやメモリの種類により上記の表示内容は実際のモデルと異なる場合があります。

現在の設定の状況が一覧となって画面に表示されています。それぞれのサブメニューはプルダウン式に表示されます。
これらのサブメニューは左右のカーサ移動キーにより、それぞれ選択することができます。設定したい項目のサブメニューに移動し、今度は上下のカーサ移動キーを押すことによって、それぞれのサブメニューの中の各項目を選択します。また<Esc>を押すことにより、終了サブメニューに移動することができます。

■Standard（スタンダードサブメニュー）

このサブメニューには以下の設定項目があります。設定内容の変更を行う上下カーサ移動キーを押して希望の項目に箱型カーソルを移動させ<Enter>をタイプします。

1) Date

カレンダの日付を変更します。表示されているのが、現在設定されている日付です。変更の必要があれば、左右カーサ移動キーを使って変更したい月、日、年のところへカーサを移動し、数字キーを使って希望する日付を入力してください。数字は月/日/年の順番に並んでいます。入力が終わったら、<Enter>を押します。変更せずに元へ戻るときには<Esc>を押します。

2) Time

時計の時刻を変更します。表示されているのが現在設定されている時刻です。変更の必要があれば、左右カーサ移動キーを使って変更したい時、分、秒のところへカーサを移動し、数字キーを使って希望する時刻を入力してください。数字は時/分/秒の順番に並んでいます。入力が終わったら、<Enter>を押します。変更せずに元へ戻るときには<Esc>を押します。

3) COM PortA

コンピュータの背面にある、シリアルポートコネクタのポート設定を行うことができます。通常はCOM1（3F8h）に設定しておきます。使用されるアプリケーションプログラムの都合などにより、このポート設定を変更するときには上下カーサ移動キーを使用して、COM1からCOM4まで設定を変更することができます。なお、シリアルポートをコンピュータ上から見えない設定にするときにはDisableを選択してください。選択を完了したら、<Enter>を押してください。変更せずに元へ戻るときには<Esc>を押します。デフォルト設定ではCOM1になります。

4) StickPointer

外部シリアルマウスを接続して使用したいときには、この設定を変更して内部スティックポインタを動作をしないようにすることができます。使用するソフトウエアによっては、スティックポインタとシリアルマウスを接続している場合、常にスティックポインタを優先的に検出して動作してしまうものがあります。このポート設定を変更するときには上下カーサ移動キーを使用して、DisableとEnableに設定を変更することができます。選択を完了したら、<Enter>を押してください。変更せずに元へ戻るときには<Esc>を押します。デフォルト設定ではEnableになります。

5) LPT Port Address

プリンタポートのポート設定を行うことができます。通常、ポート設定はLPT1（378h）にしておきます。使用するプログラムの都合により、このポート設定を変更するときには、上下カーサ移動キーを使用してLPT1からLPT3まで設定を変更することができます。コンピュータからプリンタポートを見えないようにしたい場合は、Disableを選択してください。選択を完了したら、<Enter>を押してください。変更せずに元へ戻るときには<Esc>を押します。デフォルト設定ではLPT1になります。

6) Diskette Drive

フロッピーディスクドライ（FDD）の設定を行います。FDDの動作を強制的に禁止し

たい場合にのみ設定を変更することができます。通常はこの設定は1.44MBとしておいてください。デフォルト設定では"1.44MB"になっています。

7) Hard Disk

ハードディスクドライブの設定を行います。ソーテック*WinBook Pro*コンピュータではこの設定は常にHard Disk は"Auto"にしておかなくてはなりません。その他の設定を行うとシステムは正しく動作することができませんのでご注意ください。"Auto"を選択することで、*WinBook Pro*はHDDの容量を自動的に認識しシステムを立ちあげますがハードディスクドライブ（HDD）を交換した場合は一度システムコンフィグレーションをスタートさせHDDの容量を確認後終了させる必要があります。デフォルト設定では"Auto"になっています。なお、特別な設定を行いたい場合は上下カーサ移動キーを使用してその設定を選択し、<Enter>を押してください。変更しない場合には<Esc>を押します。

8) Sound

サウンド回路を禁止します。PCMCIAスロットに別のサウンドカードまたは弊社MMU-2000を接続する時にはこの設定を"Disable"にします。
これ以外の場合は常に"Enable"にしておきます。デフォルト設定では"Enable"です。

■Preferences（プリファレンスサブメニュー）

このサブメニューには以下の設定項目があります。設定内容の変更を行う上下カーサ移動キーを押して希望の項目に反転カーソルを移動させ<Enter>をタイプします。

1) Quick Boot

リセット時に行われるメモリテストを行わずにブートを行うように設定します。これにより、より早いシステムの立ち上げを行うことができます。チェックマーク"　"がQuick Bootの表示の左側に表示されているときにこの機能が働きます。ここでもう一度<Enter>を押せばこの機能を解除することができます。デフォルトではこの機能は禁止されています。

2) Typematic Rate

キーボードのキーを押しつづけたときのオートリピートの間隔を設定します。30文字/秒（30CPS）から2文字/秒（2CPS）までを選択できます。好みの設定を行ってください。カーサ上下移動キーを押して選択し、<Enter>を押します。設定を行わない場合は<Esc>を押します。デフォルトでは10CPS（10文字/秒）の速度に設定されています。

3) Typematic Delay

キーボードのキーを押してからオートリピートの始まるまでの遅延時間を設定します。250ミリ秒（250ms）から1000ミリ秒（1000ms）までを選択できます。好みの設定を行ってください。カーサ上下移動キーを押して選択し、<Enter>を押します。設定を行わない場合は<Esc>を押します。デフォルトでは500ms（0.5秒）の時間設定になっています。

4) Boot Password

システムをスタートさせたときに、機密保護のためにパスワードを設定することができます。この項目で<Enter>を押すとシステムがパスワードを入力するように聞いてきます。4文字から8文字の長さでパスワードを入力します。パスワードに使用できるのは英、数字キーだけです。2回同じパスワードを入力することによりそのパスワードが受け入れられます。パスワードは何かにメモするなどして、忘れないようにしてください。次回のシステムの立ち上がり時に以下のよう画面でシステムはパスワードの入力を要求してきます。正しいパスワードをタイプしてください。間違った入力を行った場合は、3回まで再要求を行います。3回とも間違えた場合には、システムはリブートします。

```
Enter your BOOT PASSWORD __________
```

パスワードを忘れた場合には、ソーテックテクニカルサポートセンタまでご連絡ください。

5) SCU Password

システムコンフィグレーションメニューをスタートさせるときに、パスワードを設定することができます。この項目で<Enter>を押すとシステムがパスワードを入力するように聞いてきます。4文字から8文字の長さでパスワードを押します。パスワードに使用できるのは英、数字キーだけです。2回同じパスワードを入力することにより、そのパスワードが受け入れられます。パスワードは何かにメモするなどして、忘れないようにしてください。次回のシステムコンフィグレーションのスタート時に以下の入力画面が現れますのでここで正しいパスワードをタイプしてください。間違った入力を行った場合は、3回まで再要求を行います。3回とも間違えた場合には、システムはリブートします。

```
Enter your SETUP PASSWORD__________
```

6) First Boot

システムはフロッピーディスク、ハードディスクまたはICカードのいずれからもブートさせることが可能です（ただし装着メディアが正しくブートできるように書き込まれていることが必要です）。通常はドライブAのフロッピーディスクを読みに行き、もしメディアが装着されていなければハードディスクからブートし、ハードディスクがなければICカードからブートを行います。上下カーサ移動キーを押してどのデバイスからブートを最初に行うかを設定します。選択を決定したら、<Enter>を押します。設定を行わないときには<Esc>を押します。デフォルトはドライブAつまりフロッピーディスクから最初にブートを行うようになっています。

■VGA（VGAサブメニュー）

このサブメニューには以下の設定項目があります。設定内容の変更を行う上下カーサ移動キーを押して希望の項目に反転カーソルを移動させ、<Enter>をタイプします。

1) Display Mode

外部CRTとLCDの表示をどのように行うかを設定します。BOTHを選択するとCRT、LCD同時に表示（サイマルディスプレイ）し、LCDを選択するとLCDにのみ表示します。CRTを選択するとCRTにのみ表示します。上下カーサ移動キーを押して選択を決定したら、<Enter>を押します。設定を行わないときには<Esc>を押してください。デフォルトはLCDになっています。

■Memory（メモリサブメニュー）

このサブメニューには以下の設定項目があります。設定内容の変更を行う上下カーサ移動キーを押して希望の項目に反転カーソルを移動させ、<Enter>をタイプします。

1) Cache Enable

CPU内部のキャッシュメモリの動作を行うかどうかを設定します。特に必要のない限りこれはCache Enableの状態で使用してください。キャッシュを禁止するとシステムの処理スピードは遅くなります。デフォルトでキャッシュ機能は生かされています。

■Power Management（パワーマネージメントサブメニュー）

この項目を選択して<Enter>を押すか、上下カーサ移動キーを押すとパワーマネージメントメニュー（PMメニュー）をスタートさせることができます。詳しい内容はこの先の"パワーマネージメントメニューをスタートさせる"の項目をお読みください。PMメニューを終了させるとここに戻ってきます。

■Defaults（デフォルトサブメニュー）

この項目を選択して<Enter>を押すか、上下カーサ移動キーを押すとシステムコンフィグレーションのデフォルト値を設定することができます。各設定項目の内容は以下のとおりです。

Standard	デフォルト設定値	説明
Date	No effect	デフォルトはありません
Time	No effect	デフォルトはありません
COM PORT A	COM1（3F8h）	シリアルポートはCOM1設定
StickPointer	Enable	スティックポインタは使用できる状態
LPT Port Address	LPT1（378h）	プリンタポートはLPT1設定
Diskette Drive	1.44MB	FDDは1.44MB
Hard Disk 1	Auto	自動設定
Sound	Enable	内部サウンド機能を使います

Preference	デフォルト設定値	説明
Quick Boot	Not Quick Boot	メモリテストを実行します
Num Lock	Not Num Lock	NUMロック オフ
Boot Speed	High	速いスピード
Typematic Rate	10 CPS	10文字/秒
Typematic Delay	500mS	0.5秒
Boot Password	Disabled	なし
SCU Password	Disabled	なし
First Boot	Drive A	フロッピーから最初にブート

VGA	デフォルト設定値	説明
Display Mode	LCD	LCDにのみ表示

Memory	デフォルト設定値	説明
Cache Enable	Enable	CPUキャッシュオン

■Exit （終了）

この項目を選択して上下カーサ移動キーを押すか、<Enter>を押すと終了サブメニューが表示されます。設定内容を変更していなければ以下のような表示になり、<Esc>を押せばシステムコンフィグレーションメニューを終了します。その他のキーを押せば設定の変更を継続することができます。

```
ESC to exit now  Any other key to continue
```

設定を変更している場合は、以下のような表示になります。

```
Do you wish to save your changes?  ESC to exit - ENTER to save and exit
Any other key to continue
```

設定内容をリチウム電池でバックアップされたメモリに記憶させて終了させるためには<Enter>を押します。システムをメモリに書き込んでからシステムコンフィグレーションメニューを終了させます。設定を変更しないで終了する場合は、<Esc>を押してください。変更を継続する場合には何かその他のキーを押してください。
なお、その他のサブメニューを選択中に<Esc>を押すことで終了サブメニューに移動することができます。また<F10>を押すことで、メモリに設定内容を記憶させることができます。

パワーマネージメントメニューをスタートさせる

パワーマネージメントメニュープログラムはメモリの中に常駐しています。これをスタートさせるには、<Fn>+<Esc>を押します。パワーマネージメントメニュー（PMメニュー）が以下のように現れます。
このメニューは一番上の行に示されるような各サブメニューにその目的に応じて分れています。

サブメニュー

```
(Controls     System      Device      Deafaults      Exit)
──── SystemSoft MAXIMIZER(tm) for 80486/86C368 Version 0.3(2310-16) ────
            Copyright 1990-1993 SystemSoft Corp. All Rights Reserved.

──────Controls──────────────────   ──────System Options──────────────────
Power Saving:             Always   Cpu Idle:                      Disable
Power Switch:     Suspend/Resume   Global Standby:                Disable
Battery Low:           Warn Only   Auto Suspend:                  Disable
Alarm Resume:            Disable   Video Monitoring:              Disable
Cover Switch:            Suspend

         Devices
Video:            Always On
HardDisk:         Always On

                 ESC to exit - F10 to save changes
```

現在の設定の状況が一覧となって画面に表示されています。それぞれのサブメニューはプルダウン式に表示されます。
これらのサブメニューは左右のカーサ移動キーにより、それぞれ選択することができます。設定したい項目のサブメニューに移動し、今度は上下のカーサ移動キーを押すことによって、それぞれのサブメニューの中の各項目を選択します。この時<Esc>を押すと終了のサブメニューに移ることができます。

■Controls（コントロールサブメニュー）

このサブメニューには以下の設定項目があります。設定内容の変更を行う上下カーサ移動キーを押して希望の項目に箱型カーソルを移動させ、<Enter>を押します。

1) Power Savings（パワーセーブ）

システムのパワーセーブ機能をどのようなときに有効にするかを設定します。Alwaysを設定すると、バッテリパック・ACアダプタどちらの電源を使用していてもパワーセーブ機能はいつも有効になります。Batteryを設定すると、バッテリパックを使用しているときのみ、パワーセーブ機能が有効になります。Disableを設定すると、パワーセーブ機能は無効になります。上下カーサ移動キーを押して項目を設定したのち、<Enter>を押し

ます。設定を行わないときには<Esc>を押します。デフォルト設定はAlwaysです。

2) Power Switch（電源スイッチ）

電源スイッチの機能を切り替えます。電源スイッチを押すことによりシステムをパワーオン・オフさせるか、サスペンド・レジュームさせるかを選択します。On/Offを選択すると電源スイッチはオン・オフ機能になります。Suspend/Resumeを選択すると電源スイッチはサスペンド・レジューム機能になります。上下カーサ移動キーを押して項目を選択したのち、<Enter>を押します。設定を行わないときには<Esc>を押します。デフォルト設定はSuspend/Resume（サスペンド・レジューム）です。

3) Battery Low Suspend（バッテリ容量低下時にサスペンド）

バッテリ容量が少なくなったときにシステムをどのように動作させるかを選択します。システムは電池容量が少なくなったとき自動的に電源LEDの色を緑からオレンジに変化させ、また消費電力を節約するため、CPUの動作速度を低下させます。このとき、スピーカからは16秒毎にピッと音が発生します。Warn Onlyを選択すると、システムは動作出来る限界点にてサスペンドします。Suspendを選択すると、ある程度余裕を持ってサスペンドに入ります。チェックマーク"√"がBattery Lowの表示の左側に表示されているときはSuspend（サスペンド）になり、チェックマーク"√"が無い場合はWarn Only（警告のみ）となります。ここでもう一度<Enter>を押せばこの機能を切り替えることができます。デフォルトではWarn Only（警告のみ）となっています。なおメニュー画面のControlsと表示された項目のBattery Lowの項目でもその設定を確認することができます。

ローバッテリ状態でサスペンドに入ったときはそのままの状態からレジュームさせないでください。システムにはレジュームさせるだけの容量は残っていません。必ずACアダプタを接続してから、レジュームさせてください。

4) Alarm Resume（時刻設定によるレジューム）

あらかじめ設定した時刻にシステムをレジュームさせることが可能です。この機能を設定するにはアラーム時刻の設定が必要です。この項目にて<Enter>を押すと以下のような表示が出てきてアラームレジュームを行うかを聞いてきます。設定を行うなら上下カーサ移動キーを押して表示をEnable（動作許可）にして、<Enter>を押します。逆にアラームレジュームを禁止したいならここで表示がDisable（禁止）となるようにして、<Enter>を押します。設定がEnableになっているとチェックマーク"√"がAlarm Resume表示の左側に現れます。デフォルトでこの機能は禁止されています。

```
Use ARROWS to Enalbe/Disable Alarm  Enable
```

このあと以下のようなアラーム時刻設定を行うための表示がでてきますので希望の時刻に設定を変更します。時間・分のカーソルの位置を変更するには左右カーサ移動キー

を、それぞれの値を変更するには上下カーサ移動キーを使用してください。変更が終わったら<Enter>を押してください。変更しないときには<Esc>を押してください。

```
Use ARROWS to set the Alarm time  04:50
```

5) Cover Switch （LCD装置を閉じたときの設定）

LCDを閉じたときのコンピュータの動作を選択することができます。LCDを閉じたら自動的にサスペンド状態になる設定と、LCDを閉じてもコンピュータはそのまま動作を続ける設定です。通常はサスペンド設定でご使用ください。動作をしつづけるように設定することでLCDを閉じて、外部キーボード、外部CRTを接続して*WinBook Pro*をデスクトップコンピュータのように使うことができるようになります。この項目で<Enter>を押すとSuspendまたはLCD On/Offの選択を上下カーサー移動キーで行うことができます。デフォルトはSuspendです。

LCDを閉じた状態で使用されるときは内部の熱がこもらないように風通しの良いところにおいてご使用ください。内部温度が上昇しすぎた場合には過熱保護装置が機能し、システムの動作スピードが遅くなることがあります。このようなときにはシステムをオフして温度が低下するまでご使用にならないでください。

LCDを閉じたままご使用になった後、温度が下がらないうちにLCD装置を開けて使用された場合、LCD上に表示のムラが現れる場合がありますが、これは故障ではありません。しばらくたてばこのムラは無くなります。

6) High Speed Com Port

シリアルポートにて9600BPS以上の高速なモデムなどをお使いになる場合、または9600BPS以上の高速なFAX/MODEM ICカードをお使いになる場合はこの項目で<Enter>を押し設定を変更してください。チェックマーク“√”がHigh Speed Com Portの表示の左側に現れた場合は、9600BPS以上の高速転送が可能です。チェックマークが無い場合は9600BPS以上の高速シリアル転送中においてデータが正しく転送できない場合があります。デフォルトでは消費電力削減の為チェックマークなしにしています。

7) PC Speaker Enable（PCスピーカのオン・オフ）

PCスピーカから出る音を禁止します。この項目で<Enter>を押すと設定の変更を行うことができます。チェックマーク“√”がBeeper On/Offの表示の左側に現れたときはスピーカから音が出る状態（オン）になります。デフォルトでPCスピーカの音はオンになっています。

この機能を利用して制御できるのはPCスピーカと呼ばれる音の機能と、PCMCIAカードから出力される音の機能のみです。

■System（システムサブメニュー）

1) CPU Idle（CPUのアイドル設定）

システムが一定時間稼動していないと判断した場合に、自動的にCPUのクロックスピードを遅くするための機能です。この稼動していない時間リミットの設定をここで行うことができます。この項目で<Enter>を押すと4秒から16秒までの選択を上下カーサ移動キーにて行うことができます。この機能を使用しないときにはDisableを選択してください。希望の時間設定の位置で<Enter>を押すと設定されます。設定を行わないときには<Esc>を押してください。デフォルトはDisable（禁止）です。
アイドル状態（クロックの下がった状態）でキーボードを押すなどアクションを起こすとCPUのスピードは自動的に元の速度に復帰します。

メモリの中だけで計算を行うようなプログラムを実行している場合にこの設定を行うと、稼動状態の検出が正しくできないことがあり、CPUのスピードが落ちてしまいます。このようなときにはCPU Idle設定はDisableにしてご使用ください。

2) Global Standby（グローバルスタンバイ）

システムが一定時間稼動していないと判断した場合に、自動的にシステムの各部品の電源をオフにしてしまうための機能です。このときシステムは動作を停止し、表示（LCDとCRT）はしなくなります。
この稼動していない時間リミットの設定をここで行うことができます。この項目で<Enter>を押すと1分から16分の間での選択を上下カーサ移動キーにて行うことができます。この機能を使用しないときにはDisableを選択してください。希望の時間設定の位置で<Enter>を押すと設定されます。設定を行わないときには<Esc>を押してください。デフォルトはDisableです。
グローバルスタンバイ状態でキーボードを押すなどアクションを起こすとシステムはグローバルスタンバイに入る以前の状態に復帰します。

メモリの中だけで計算を行うようなプログラムを実行している場合にこの設定を行うと、稼動状態の検出が正しくできないことがあり、グローバルスタンバイになってしまうことがあります。このようなときにはGlobal Standby設定はDisableにしてご使用ください。

3) Auto Suspend（オートサスペンド）

システムが一定時間稼動していないと判断した場合に、自動的にシステムをサスペンドさせるための機能です。このときシステムの動作は停止し、表示も消えます。前出のグローバルスタンバイよりさらに消費電流は少なくなります。
この稼動していない時間リミットの設定をここで行うことができます。この項目で<Enter>を押すと1分から60分の間での選択を上下カーサ移動キーにて行うことができます。この機能を使用しないときにはDisableを選択してください。希望の時間設定の位置で

<Enter>を押すと設定されます。設定を行わない時には<Esc>を押してください。デフォルトはDisableです。
サスペンド状態からの復帰（レジューム）はキーボードのキースイッチを押すか、電源スイッチを押すかにより行うことができます（アラームレジューム、モデム電話呼び出しレジュームも設定により可能です）。レジューム動作には数秒を必要とします。

メモリの中だけで計算を行うようなプログラムを実行している場合に、この設定を行うと、稼動状態の検出が正しくできないことがあり、サスペンド状態になってしまうことがあります。このようなときにはAuto Suspend設定はDisableにしてご使用ください。

4) Video Monitoring（ビデオモニタリング）

上記3種類のパワーセーブ機能を使用しているときに、アプリケーションプログラムによってはこの機能を設定したほうがより効果的にパワーセーブできる場合があります。この項目で<Enter>を押し、チェックマーク“√”がVideo Monitoring表示の左側に現れると、この機能が生かされています。デフォルトでこの機能は禁止されています。

■Device（デバイスサブメニュー）

このサブメニューには以下の設定項目があります。設定内容の変更を行う上下カーサ移動キーを押して希望の項目に箱型カーソルを移動させ、<Enter>を押します。

1) Video（ビデオ部）

一定時間キーボードからの入力をしていないと判断した場合に、自動的にLCD・CRT表示回路の電源をオフにする機能です。このときシステムの表示は消えますが、動作は継続しています。この項目で<Enter>を押すと1分から16分までの時間選択を上下カーサ移動キーにて行うことができます。この機能を使用しないときにはAlways Onを選択します。<Enter>を押すと設定されます。デフォルトでAlways Onになっています。

2) Hard disk（ハードディスク部）

一定時間キーボードからの入力がないか、ハードディスクの使用がなかったと判断した場合に自動的にHDDの電源をオフにする機能です。このときHDDの電源はオフになりますが他のシステムの動作は継続しています。この項目で<Enter>を押すと1分から16分までの時間選択を上下カーサ移動キーにて行うことができます。この機能を使用しないときにはAlways Onを選択します。<Enter>を押すと設定されます。デフォルトでAlways Onになっています。

■Defaults（デフォルトサブメニュー）

この項目を選択して<Enter>を押すか、上下カーサ移動キーを押すとパワーマネージメントメニューのデフォルト値を設定することができます。各設定項目の内容は以下のとおりです。

Controls	デフォルト設定値	説明
Power Savings	Battery	バッテリー使用時のみパワーセーブを行う
Power Switch	Suspend-Resume	サスペンド・レジュームを行う
Battery Low	Warn Only	バッテリ残量警告のみ
Alarm Resume	Disabled	時刻設定レジューム禁止
Cover Switch	Suspend-Resume	サスペンド・レジュームを行う
PC Speaker Enable	On	PCスピーカ出力オン

System	デフォルト設定値	説明
CPU Idle	8	CPUのスタンバイ機能8秒
Global Standby	6	システム全体のスタンバイ機能6分
Auto Suspend	10	自動サスペンド10分
Video Monitoring	Disabled	ビデオメモリアクセス監視機能禁止

Device	デフォルト設定値	説明
Video	4	ビデオ回路のパワーセーブ4分
Hard Disk	Always On	ハードディスクのパワーセーブ無し

■Exit（終了サブメニュー）

この項目を選択して上下カーサ移動キーを押すか、<Enter>を押すと終了サブメニューが表示されます。設定内容を変更していなければ以下のような表示になり、<Esc>を押せばパワーマネージメントメニューを終了します。その他のキーを押せば設定の変更を継続することができます。

```
ESC to exit now  Any other key to continue
```

もし設定を変更している場合は以下のような表示になります。設定内容をリチウム電池でバックアップされたメモリに記憶させて終了させるためには、<Enter>を押します。システムをメモリに書き込んでからパワーマネージメントメニューを終了させます。設定を変更しないで終了する場合は<Esc>を押してください。変更を継続する場合には、何かその他のキーを押してください。パワーマネージメントメニューを抜け出すと呼び出す前の状態に戻ります。

```
Do you wish to save your changes?  ESC to exit - ENTER to save and exit
Any other key to continue
```

なお、その他のサブメニューを選択中に<Esc>を押すことで終了サブメニューに移動することができます。またF10キーを押すことでメモリに設定内容を記憶させることができます。

サウンド機能を使う・6

●この章では

- サウンド機能の説明
- WINDOWSでのサウンド機能利用
- DOSでのサウンド機能
- サウンド機能の再インストール

ソーテックWinBook Proコンピュータは高機能サウンド機能を搭載しており、この機能を利用して音声の取り込みや再生、編集などを行うことができます。

サウンド機能

WinBook Proには16ビットステレオサウンドをサポートする機能が搭載されています。この機能により、接続した音響機器あるいはマイクから音声を録音し、編集、再生させることができます。

■内蔵スピーカ

内蔵スピーカはモノラルのみの機能（Lチャネル）です。このスピーカからは以下の5種類の別の音源から音をサウンドミキサ機能にて合成出力することが可能です。

音の発生源	説明
PCスピーカ	従来のコンピュータについているいわゆる"ビープ音"を発生する音声です。
PCMCIAカード	PCMCIAカードから発生する音声です。ただし、PCMCIAで音の発生が可能なカードを装着し、適切設定されている場合に限ります。（モデムカードなど）
デジタルサウンド機能	16ビットDAコンバータを使用したサウンド回路からのステレオ再生音声。
マイク入力	マイク入力端子に接続されたマイクからの音声です。
LINE IN入力	LINE IN端子端子に接続された音響機器からの音声です。

それぞれのチャネルはミキサ回路を経由して音量が調節され、増幅器を通じてスピーカに接続されています。ミックスされた音声は<Fn>+<F2>と<Fn>+<F3>にて音量調整することができます。（3章をご覧ください）

■外部スピーカ端子

ステレオ外部スピーカをこの端子に接続すれば、ステレオサウンドを再生することができます。出力されるサウンドは上記の内部スピーカの説明と同じです。

■マイク入力端子

モノラルのマイクをこの端子に接続すれば、マイクからの音声をコンピュータに取り込むことができます。

■LINE IN端子

CDプレーヤなどの音響機器のLINE OUT端子出力をこの端子に接続すれば、音響機器の音声などをコンピュータに取り込むことが可能です。

Windowsでのサウンド機能

ハードディスクにはWindowsの下で各種サウンド機能を利用するためのいくつかのプログラムがすでに提供されています。このプログラムを利用していろいろなサウンド機能を楽しむことができます。

以下のようなアプリケーションが提供されています。Windowsでの音量の調整はシステムファンクションキー（3章キーボードの説明をお読み下さい。）の代わりに以下のアプリケーションの中のボリュームコントロールを使用してください。

- ・再生中の音量とステレオバランスを調整する、ボリュームコントロール
- ・音声を録音、圧縮しファイルに記録するオーディオレコーダ。WAV、AUDフォーマットのファイルを再生する機能もあります
- ・各音声ソースの録音時の音量、バランスを調整するレコーディングコントロール
- ・再生時の各音声ソースの音量、バランスを調整するミキサ
- ・より長時間の録音を可能にするエクステンデッドレコーダ
- ・各種オーディオファイルを収納し管理できるオーディオクリップライブラリ
- ・おしゃべり電卓
- ・おしゃべり時計
- ・定刻を告げるチャイム
- ・2つの音声アラームのついたオーディオリマインダ
- ・おしゃべりストップウォッチ
- ・残り時間を告げるおしゃべりタイマー

DOSでのサウンド機能

*WinBook Pro*のサウンド機能はサウンドブラスタープロのFMシンセサイザを除いた部分に互換です。ゲームソフトなどサウンド機能をサポートするプログラムをロードするときにはサウンドブラスタまたはサウンドブラスタプロを選択してください。
ただしFMシンセサイザ機能によるミュージック演奏機能は働きません。
また、プログラムの設定時には以下のIRQ、DMA、I/Oポートに設定されていることをお確かめください。

I/Oポートアドレス:　220H
IRQチャネル:　5
DMAチャネル:　3

ご利用になるプログラムによってはこの設定を行えないものもあります。

サウンド機能の再インストール

この作業にはシステムから作成したバックアップディスケットが必要です。システムが案内するバックアップの作成を行って“オーディオアプリケーションディスク1、2”を作成してください。
バックアップ操作により作成された“オーディオアプリケーションディスク”を使って簡単にWindows用のサウンドドライバとアプリケーションをハードディスクに再度インストールすることができます。

■SETUPプログラムをスタートさせる

HDDに何もサウンドドライバがインストールされていないとき

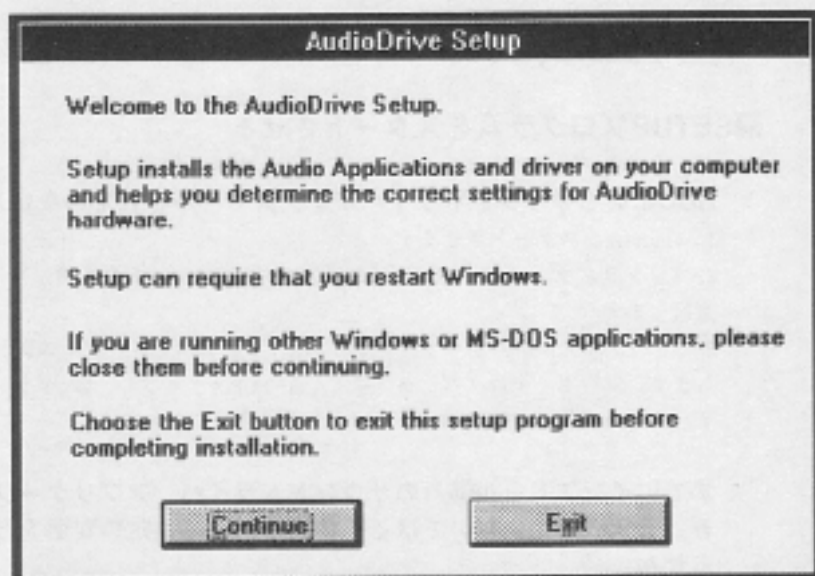
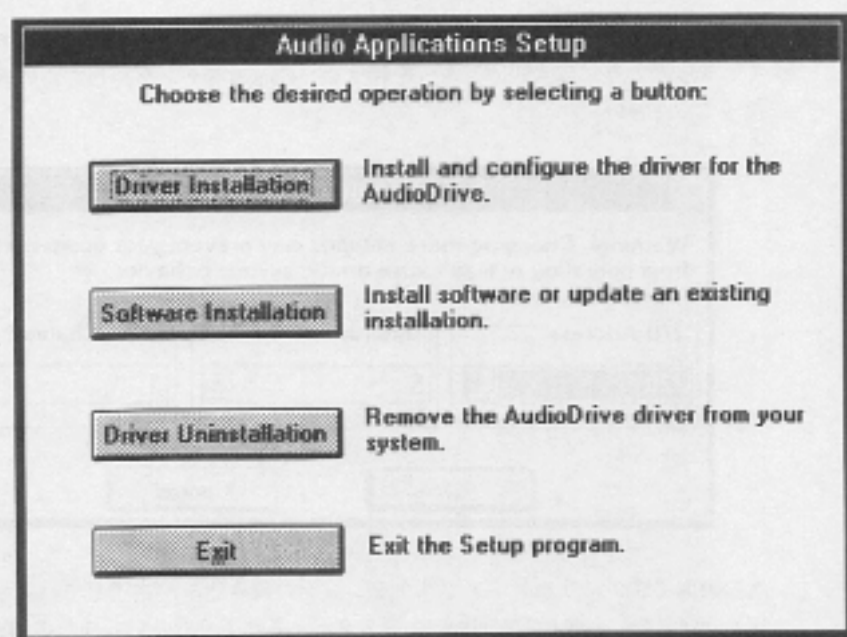
1. Windowsをスタートさせます。
2. プログラムマネージャの＜アイコン（F）＞＜ファイル名を指定して実行（R）＞を選択します。
3. “オーディオアプリケーションディスク1”をフロッピーディスクドライブにセットします。実行ダイアログボックスにてA:SETUPとタイプし、OKボタンをクリックします。すると最初のAudioDriveのインストール画面になります。

すでにインストール済みのサウンドドライバ、アプリケーションを変更する。通常の使用においてはこの機能を用いて設定の変更を行う必要はありません。

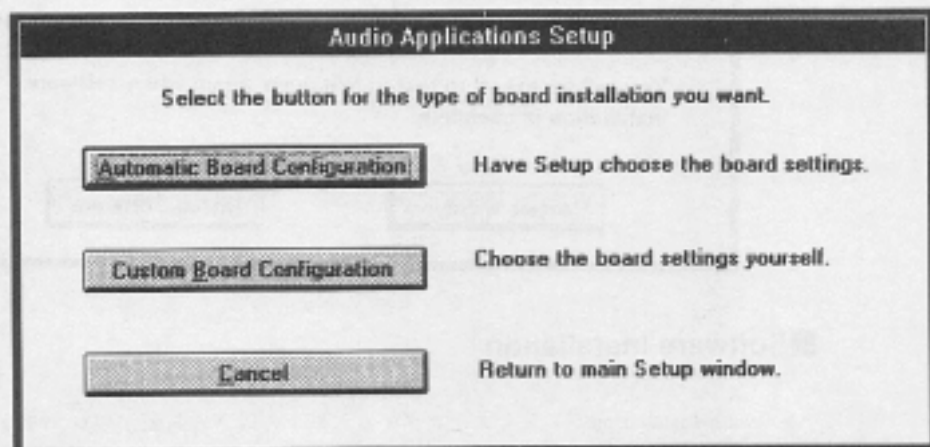
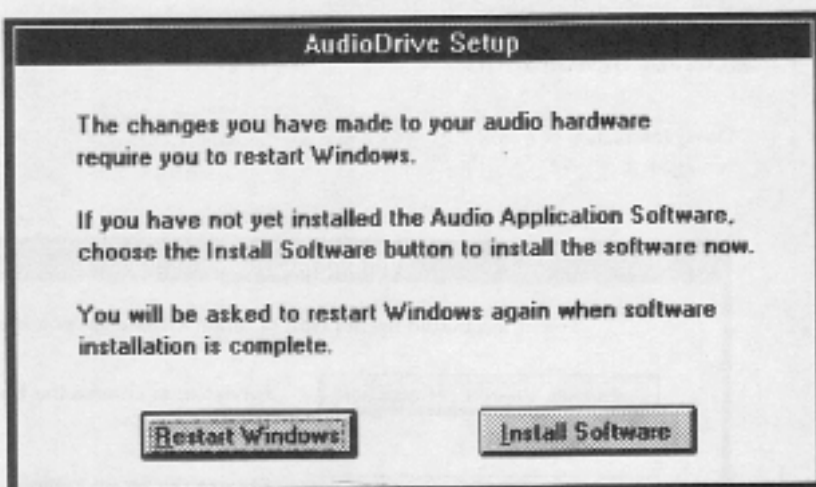
1. Windowsをスタートさせ、Audio Applicationsプログラムループを開けてください。
2. Setupアイコンをダブルクリックしてください。またはこのアイコンを選択して＜Enter＞を押してください。

最初のAudioDriveセットアップ画面が現れます。

■AudioDriveドライバとアプリケーションのインストール

以下に示すのがAudioDriveセットアップ画面です。

Continueをクリックすればこの作業を続行、Exitをクリックすれば作業を中止してWindowsへ戻ります。
この2つ目のセットアップ画面では第一番上のボタンを押すとサウンドドライバのインストールを行うことができます（もしすでにドライバがインストールされているならドライバのUninstallを選択してドライバを削除し、Windowsを終了して再度スタートさせてから再びこのセットアップをスタートさせてください）。2個目のボタンはサウンドアプリケーションをインストールします。3個目のボタンで現在インストールされているサウンドドライバをWindowsから削除することができます。

それではそれぞれのボタンをみましょう。

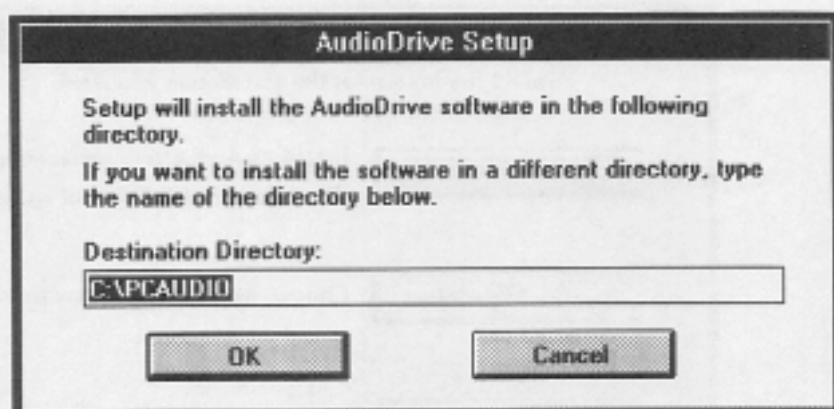
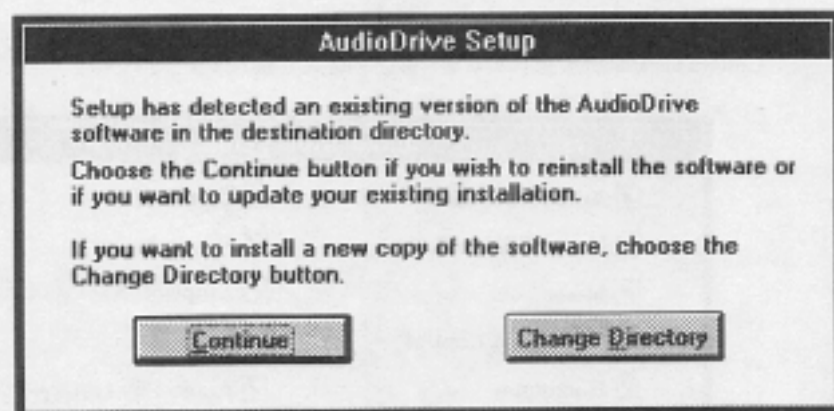
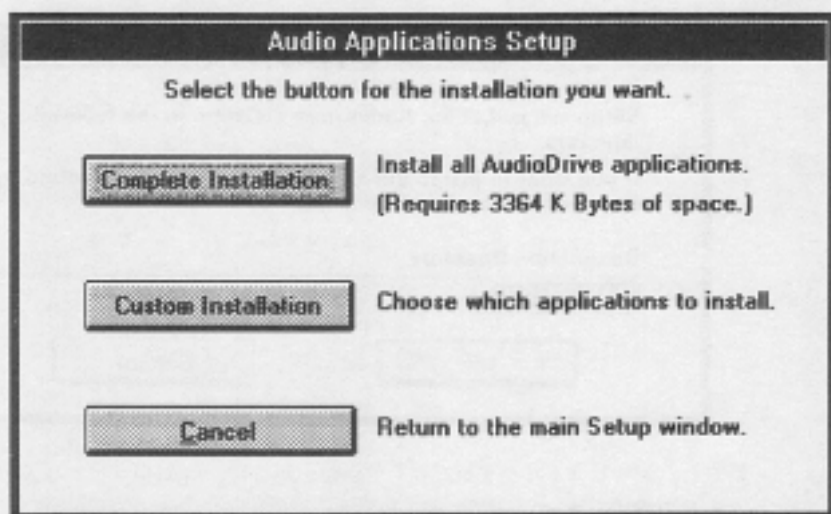
■Driver Instollation

Driver Installationボタンをクリックすると以下の画面が現れ、サウンドドライバをインストールすることができます。

特別な必要が無いかぎりこのAutomatic Board Configuration（自動設定）を押してドライバのインストールを行ってください。この自動設定を行うことでシステムの状態にあわせたDMAチャネル、I/Oチャネル、IRQ設定にてインストールを行うことができます。

Custom Board Configurationを選択すると以下のような画面が現れますが、システムでは設

定を変更してドライバをインストールすることはできません。間違えてこの画面を選択してしまったときには＜ESC＞キーを押すか、Cancelボタンを押してこの画面からもとに戻ってください。

次の画面ですでにサウンドアプリケーションの組み込みが完了しているならば、Restart Windowsボタンを押してWindowsを再スタートさせてください。まだの場合はInstall Software ボタンを押してください。

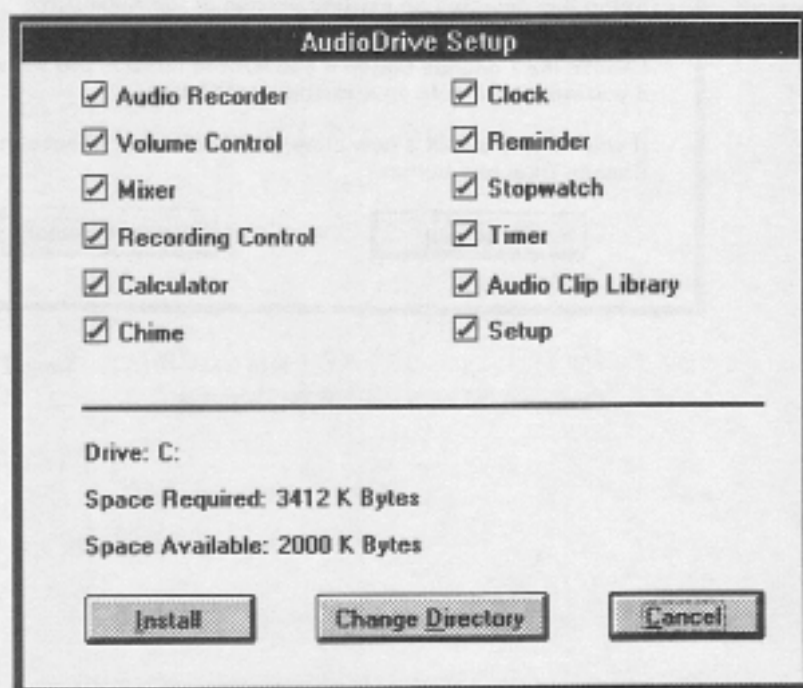
■Software Installation

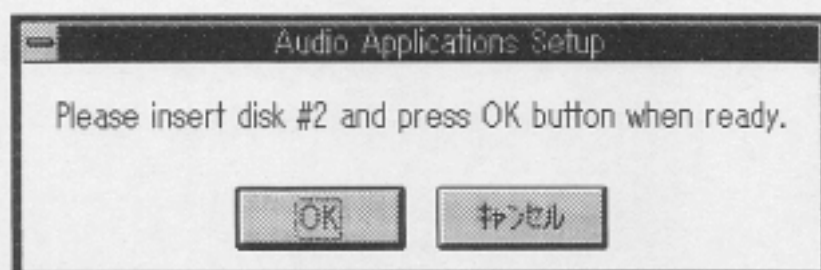
Software Installationボタンをクリックすると以下の以下の画面が現れ、サウンドアプリケーションプログラムをインストールすることができます。この画面ではサウンドアプリケーションプログラムを格納したいディレクトリ名を指定することができます。システムではPCAUDIOデフォルトとして使用しています。特に必要が無い限りこのディレクトリ名を使用してください。ディレクトリ名が確定したらOKボタンを押してください。

指定したディレクトリがまだ存在していない場合は、SETUPプログラムが自動的にディレクトリを作成します。
サウンドアプリケーションプログラムが以前からシステム上に存在している場合、以下のような画面が現れます。

その他のディレクトリにこれらのファイルを格納したい場合は、Change Directoryを選択してください。Continueを選択すると次の画面が現れます。

すべてのサウンドアプリケーションをインストールしたい場合は、Complete Installationをクリックしてください。一部のサウンドアプリケーションだけを選んでインストールしたいときにはCustom Installationをクリックしてください。
Custom Installationを選択すると、以下の画面が現れます。

AudioDrive Setup

☑ Audio Recorder ☑ Clock
☑ Volume Control ☑ Reminder
☑ Mixer ☑ Stopwatch
☑ Recording Control ☑ Timer
☑ Calculator ☑ Audio Clip Library
☑ Chime ☑ Setup

Drive: C:
Space Required: 3412 K Bytes
Space Available: 2000 K Bytes

Install　Change Directory　Cancel

インストールできるサウンドアプリケーションの一覧が表示されています。インストールして実行したい各アプリケーションの左側のボックスをクリックしてチェックマークを付

けてください。これらのアプリケーションを別のディレクトリに格納したい場合は、Change Directoryを選択して希望のディィレクトリを指定してください。Installをクリックすれば選択したサウンドアプリケーションをインストールし始めます。
以下の画面がでてきたら、"オーディオアプリケーションディスク2"をドライブAにセットしてOKをクリックしてください。

インストレーションが完了すると、以下のようなサウンドアプリケーションのグループとアイコンが現れます。

以上でサウンドドライバとアプリケーションのインストールが完了します。

オプションデバイスを装着する・7

●この章では

・拡張RAMモジュール
・外部キーボード・PS/2マウス
・外部CRTモニタ
・PCMCIAカード

この章では上記のオプションデバイスの装着方法について説明しています。

拡張RAMモジュール

*WinBook Pro*コンピュータは8MBのシステムメモリがコンピュータのマザーボード上に装着され、出荷されています。このほかに4MBのRAMカードを2枚または、16MBRAMカード2枚を装着でき、最大40MBのメモリを得ることができます。

■拡張RAMモジュールを装着する

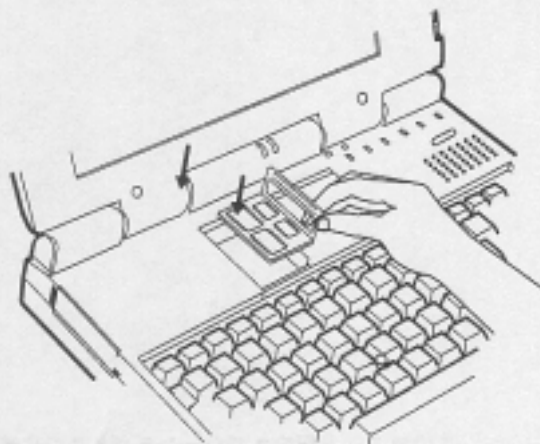
RAMモジュールを装着する前に必ずコンピュータをオフにしてください。またサスペンドレジューム設定になっていてはいけません。PMメニューにて電源スイッチの機能をオン･オフに設定し、システムの電源をオフにしてください。

弊社の*WinBooK*シリーズ用のメモリモジュールは*WinBooK Pro*では使用することが出来ません。

拡張RAMモジュールを装着するには

1)拡張RAMエリアのふたを開けます。

2)モジュールを注意深く1枚ずつ装着します。

3)拡張RAMエリアのふたを閉めます。

拡張RAMモジュールの装着後最初のパワーオンを行ったときには、システムが以前に記憶していたRAMの容量と現在の容量が一致しないため、画面にエラーメッセージが表示されます。この場合は、<Ctrl>+<Alt>+<S>を押してシステムコンフィグレーションプログラムを呼び出してください。システムは自動的に現在のRAM容量を読み込み、設定を行いますので、ここで<F10>を押してその新しいRAM容量設定を記憶させます。詳しい内容は5章の説明をお読みください。

4MB拡張RAMモジュールを他のサイズのRAMモジュールと共に追加する場合は必ず4MB拡張RAMモジュールを上にして装着してください。下に装着した場合は正しいメモリ容量を得ることができなくなります。ただし2枚の4MB拡張RAMモジュールを装着する場合にはこの限りではありません。

外部キーボード

*WinBook Pro*コンピュータは外部キーボード用のコネクタを装着しています。PS/2用のキーボード装置を接続して使用することができます。また、外部キーボードを接続していても内部キーボードは同時に使用することができます。

■外部キーボードを接続する

この先に進む前にコンピュータをサスペンンド・レジュームから解除し、電源を切ってください。

コンピュータの背面の右側にある外部キーボードコネクタに、外部キーボードのケーブルを差し込みます。
コンピュータの電源をオンにしたときに外部キーボードは自動的にコンピュータに認識されます。
この外部キーボードコネクタに別売りのキーボード・マウス接続アダプタを接続すると、PS/2マウスとPS/2外部キーボードを同時に接続することができるようになります。

日本IBM社製のキーボード・マウス接続アダプタをお使いになる場合には、キーボードとマウスの表示が逆になるため、キーボードの表示側にはマウスをマウスの表示側にはキーボードを接続してください。（内部仕様が違うため）

■外部PS/2マウスを接続する

コンピュータの背面の右側にある、外部キーボードコネクタに外部キーボードの代わりにマイクロソフトPS/2マウスを接続して使用することができます。
コンピュータの電源をオンしたときにマイクロソフトPS/2マウスは自動的にコンピュータに認識されます。

PS/2マウスを直接このポートに接続した場合、内部スティックポインタは自動的に禁止され、使えなくなります。また外部キーボード・マウスアダプタを使用してPS/2マウスを接続した場合は、内部スティックポインタとPS/2マウスを同時に利用することができます。

外部CRTモニタ

*WinBook Pro*コンピュータのLCD画面表示だけでなく、外部VGAまたはマルチ周波数対応のCRTを接続することにより、CRTにおいても表示を行うことができます。
*WinBook Pro*コンピュータに接続、表示できるCRTはVGA対応のCRTおよび、VGA対応のマルチ周波数CRTです。CRTのタイプによりWindowsで表示可能なドット数が変化します。さらに詳しい内容についてはAPPENDIX Bのユーティリティの項目をお読みください。

■CRTモニタを接続する

この先に進む前にコンピュータをサスペンド·レジュームから解除し、電源を切ってください。

外部CRTモニタを接続するときは、外部CRTモニタのケーブルをコンピュータ背面にある外部CRTコネクタに接続してください。
システムのシステムコンフィグレーションメニューの中のVGAのLCD/CRT設定がCRTまたはBOTHの場合は、コンピュータの電源を入れることにより、自動的にCRTに表示を行います。LCD設定になっている場合はシステムコンフィグレーションメニューにてLCDまたはBOTHの設定にしてください。詳しい設定の方法は5章をお読みください。
<Fn>+<F1>キーを押すことにより、一時的に表示をLCDのみ、CRTのみ、LCD·CRT同時に切り替えることができます。詳しくは3章をお読みください。

ICカード（PCMCIAカード）

■はじめに

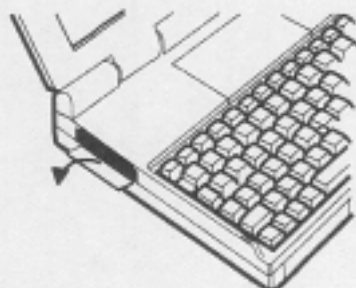
モデムカードなどはそのまま使用できるようになっていますが、SRAMカードやATAカードは出荷状態ではでは使用できないようになっています。これはSRAMカードやATAカードを使わないお客様のためにメモリをできるだけ広く提供するという考え方に基づいているためです。
PCMCIAカードをご使用になる方はCONFIG．SYSの内容をエディタを使って変更する必要があります。
詳しいCONFIG．SYSの解説については本体のHDDに書き込まれているREADME．TXTをお読みください。

■PCMCIAについて

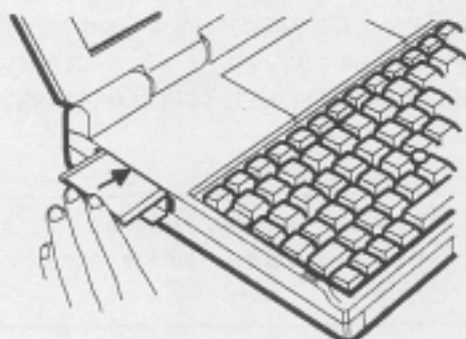
PCMCIAは携帯用パソコンなどに装着して利用するICカードを各機器で共通に使用できるように定められたICカードの規格です。この規格に準拠したメモリ、ハードディスク、モデム、LANカードなど多くのカードが販売されています。PCMCIA カードにはいくつかの厚みに応じて種類が分れています。
*WinBook Pro*コンピュータにはPCMCIA タイプ1またはタイプ2を2枚まで装着できます。厚い、タイプ3のカードの場合は下側のスロットに一枚だけ装着できます。
*WinBook Pro*コンピュータにはPCMCIAカードを装着して、使用するためのコントローラ回路と、上記のカードを装着するためのスロット装置があります。

異なる規格のICカードを装着すると、物理的にシステムに損傷を与えるおそれがあります。ソーテックの推奨するPCMCIA準拠のカードを必ずご使用ください。

■PCMCIAカードの装着

*WinBook Pro*コンピュータには、システムの動作中でもPCMCIAカードを装着することができます。またソフトウエアドライバが自動的にそのカードを認識し、装着の直後からその目的に応じて使用することが可能です。

PCMCIAカードの装着のしかたは、次のとおりです。

カードスロットカバーを開けます。
希望するスロットにICカードをゆっくり挿入します。上のスロットの場合左側、下のスロットの場合右側のカードイジェクトボタンが飛び出すまで奥に押し込みます。このときのICカードはイジェクトボタンと同じ程度（約1センチメール程度）外に出ます。

ICカードは完全に装着された状態でも、1センチメートル程外に飛び出しています。無理に押し込まないようにしてください。

システムが動作中で正しくカード用ドライバが組み込まれていれば、カードを差し込んだときにビープ音が1回鳴ってシステムがカードを認識し、動作の準備を完了したことを示します（このビープ音はPMメニューにてBEEPERをオフに設定していると鳴りません）。
この後は通常どおりカードを使用することができます。

■PCMCIAカードの取り外し

ICカードを取り出すときにはそれぞれの抜きたいICカードの入っているスロットのイジェクトボタンを押し込みます。ICカードは1センチメートル程飛び出します。

ICカードを抜き取り、保管してください。

システムが稼動中、ICカードをプログラムが使用中でなければいつでもICカードを抜き取ることが可能です。カードを抜き取ると、システムからビープ音が2回鳴りカードがシステムから抜き取られたことを知らせます（このビープ音はPMメニューにてBEEPERをオフに設定していると鳴りません）。

■ソフトウエアドライバインストール

PCMCIAカードを正しくご利用になるためには、正しくカードをサポートするためのプログラム群が設定されていなくてはなりません。APPENDIX Bをお読みください。
PCMCIAカードソフトを手軽にインストールするためのソフトウエアが準備されています。システムから作成できるリファレンスディスクに必要なソフトウエアが用意されています。詳しい設定及び使用方法についてはAPPENDIX Bユーティリティの項目をお読みください。

PCMCIAカードは、種類により動作しないものもあります。このため、PCMCIAカードをご購入される場合は、必ず本機へ対応しているかをご確認されることをおすすめいたします。

故障かな?と思ったら・8

●この章では

・トラブルとその対策

ソーテックWinBook Proコンピュータをご使用中に「故障?」と思われる症状が起きた場合、この章をご確認ください。以下に13の症状についての原因と対策を説明しますが、もしも問題が解決できない場合はお買い求めの販売店かソーテックテクニカルサポートセンタにご相談ください。

トラブルとその対策

■電源スイッチを入れても動かない

考えられる原因	対策
ACアダプターが正しく接続されていない。	ACアダプターを正しく接続してください。
バッテリーが充電されていない。	ACアダプターを接続してバッテリを充電してからご使用ください。
ACアダプターが故障している。	他の電気製品を同じコンセントに接続して、動くかどうか確認してください。もし正常に動けばACアダプターが故障している可能性があります。その場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。
本体が故障している。（以下、この項については削除します。）	お買い求めの販売店にご相談ください。

■画面に何も表示されない、または、見にくい

考えられる原因	対策
電源が入っていない。	前記の対策と同じ確認を行ってください。
コントラスト調整ノブの未調整。	コントラストボリュームを見やすい位置に調整してください。
輝度調整ノブの未調整。	バックライトボリュームを見やすい位置に調整してください。
ディスプレイの角度が悪い。	ディスプレイを見やすい角度に調整してください。
ディスプレイにムラがある。	液晶ディスプレイは、周囲の温度などの影響によって、表示が変わる特性があります。ムラがあるのは故障ではありません。
モード設定がCRTで、CRTの電源がONされていない。	CRTのスイッチをONしてください。

■HDDから立ち上がらない

考えられる原因	対策
フロッピードライブにフロッピーディスクが入っている。（A>NO System Files..）	フロッピーディスクを出して再度電源を入れ直してください。
システムディスクが挿入されていない。	システムディスクを装着してください。

■フロッピーディスクの内容が読み書きできない

考えられる原因	対策
フロッピーディスクが正しくセットされていない。	フロッピーディスクを正しくセットし直して、もう一度やり直してください。
フロッピーディスクがフォーマットされていない。	フロッピーディスクをフォーマットしてからご使用ください。
フロッピーディスクの内容が壊れている。	壊れた内容は元には戻せません。バックアップを取ってある場合は、それをご使用ください。
フロッピーディスク装置が故障している。	製品に付属しているフロッピーディスクを動かしてみて動かないときには、お買い求めの販売店にご相談ください。
フロッピーディスクが書き込み禁止状態になっている。	ライトプロテクトノッチを書き込み可能状態にしてください。
フォーマット形式の異なるフロッピーディスクがセットされている。	正しいフロッピーディスクをセットしてください。
ドライブ指定が合っていない。	ドライブ指定を正しく設定し直してください。
フロッピーディスクのメモリー残容量が充分でない。	不用なファイルを削除するか新しいフロッピーディスクを使用してください。

■押したキーと違う文字が表示される

考えられる原因	対策
CAPSロック、NUMロック、“カナ”キーなどのセッティングが間違っている。	各キーを目的のセッティングに合わせてください。

■カーソルが動かず画面が移動する

考えられる原因	対策
SCRLロック状態になっている。	SCRLロックを解除してください。

■いきなり画面が消えた

考えられる原因	対策
電源コンセント、またはACアダプターブラグが外れてしまった。	コンセントまたはプラグを挿入してください。
サスペンドタイムアウトやデバイスタイムアウトが発生した。省電力モードになった。	何かキーを押してください。元の状態に戻るはずです。省電力モードを使いたくないときはレジュームまたはシステムコンフィグレーションを変更してください。

■印刷出来ない

考えられる原因	対策
プリンターの電源が入っていない。	プリンターの電源を入れてください。
接続ケーブルが外れている。	接続ケーブルを正しく接続してください。
印刷用紙が入っていない。	印刷用紙を入れてください。

■外部マウスが動作しない

考えられる原因	対策
接続ケーブルが外れているまたは、未挿入である。	接続ケーブルを正しく挿入してください。もし動かない場合には、再度電源を入れ直して下さい。
電源投入後マウスを接続した。	電源を再投入してください。
専用アダプタを使用していない。（PS/2マウス時）	専用キーボード･マウス接続アダプタをお求めのうえ使用してください、また当アダプタには外部キーボード専用接続コネクタとPS/2マウス専用接続コネクタがあります。PS/2マウスはマウス専用接続ポートに接続してください。
外部キーボードポートに直接挿入されている。（PS/2マウス時）	専用キーボード･マウス接続アダプタをお求めのうえ使用してください。
適正なマウスドライバを使用していない。	使用されるマウスに添付されているマウスドライバを正しくインストールしてください。

■ビープ音が鳴っている

考えられる原因	対策
バッテリー容量がなくなっている。	ACアダプターを接続するかまたは、一度電源を切って別の充電済みのバッテリーを装着してください。
ACアダプタープラグが外れかかっている、または外れている。	正しく接続し直してください。

■表示される日付や時刻が正しくない

考えられる原因	対策
日付や時刻設定をしていないか、間違った設定になっている。	正しい日付や時刻に設定し直してください。

■充電表示用LEDが点灯しない

考えられる原因	対策
バッテリー端子の接触不良。	バッテリーを一度取り外してから、やわらかい布で端子部分を軽く拭いてください。

■サスペンド/レジュームできない

考えられる原因	対策
正しくパワーマネージメントメニューの設定を行っていない。	パワーマネージメントメニューを呼び出し正しく設定を行ってください。
バッテリー容量がなくなった。	ACアダプタまたは、充電済みバッテリーに交換し再度電源を入れ直してください。

HDDを修理する場合は、ドライブのみの修理もしくは交換となります。記憶されているアプリケーション、データなどの保証、修復はいたしかねますので、重要なものについては必ずコピーをとるようお願いいたします。

こんなことをしたい・9

●この章では

・システム全体

・画面関連

ソーテックWinBook Proコンピュータをご使用になる際の代表的な操作法を説明しています。

システム全体

■スピーカの音量を調節したい

・<Fn>+<F2>を押すと1段階音量がアップします。
・<Fn>+<F3>を押すと1段階音量が下がります。

■スピーカから音が出ないようにしたい

・<Fn>+<Esc>を押して、PMメニューを呼び出してください。
・Controlsサブメニューの項目で上下カーサ移動キーを押します。
・Beeperの項目の左側にはチェックマーク“√”が表示されます。
・<Enter>を押します。
・Beeperの左側のチェックマーク“√”は消えます。
・<Esc>を押します。
・<F10>を押します。
・<Esc>を押します。
・<Fn>+<Esc>を押す前の画面に戻り、完了です。

バッテリ残量が少なくなったときの警告音も出なくなります。

■サスペンド・レジューム機能を使いたい

・<Fn>+<Esc>を押して、PMメニューを呼び出してください。
・Controlsサブメニューの項目で上下カーサ移動キーを押します。
・Power Switchの項目の右側に“Suspend/Resume”と出ていれば、<Esc>を2回押して終了します。
・Power Switchの項目の右側に“On/Off”と出ているときは<Enter>を押し、“Suspend/Resume”に変更します。
・<Esc>を押します。
・<F10>を押します。
・<Fn>+<Esc>を押す前の画面に戻り、完了です。電源スイッチを押してサスペンドすることができるようになります。

■サスペンド・レジューム機能を使いたくない

前項のPower Switchの表示を“On/Off”に設定してください。

■CPUのスピードを遅くしたい（一時的）

<Fn>+<T>を押してください。CPULEDがオレンジ色に点灯すればCPUの速度は一時的に遅くすることができます。もう一度<Fn>+<T>を押せば元の速度に戻ります。

■時刻·日付を修正したい

- DOSコマンドによる方法とシステムコンフィグレーションによる修正方法があります。
- 1章の"コンピュータをスタートさせる"の項目のDOSプロンプトにおける日付·時刻の設定をご覧ください。
- システムコンフィグレーションによる変更方法は5章の"Date、Time"の項目をご覧ください。

画面関連

■CRTとの同時表示をしたい

・CRTを接続して電源を投入してください。キーボードから<Fn>+<F1>を1度押すとCRTのみの表示に切り替わります。
・もう一度<Fn>+<F1>を押すとCRT･LCDの同時表示に切り替わります。
・LCDの持つ表示能力を越える解像度では同時表示は行えません。
・システムコンフィグレーションの設定により、常に同時表示を行うようにすることも可能です。5章のSCU、VGAの項目をお読みください。

■CRTとの同時表示をしたくない

・キーボードから<Fn>+<F1>を押してLCDのみの表示に切り替えます。またシステムコンフィグレーションの設定により、同時表示を行うようにすることも出来ます。5章のSCU、VGAの項目をお読みください。

Appendix

Appendix A システムの仕様

モデル		J3DX4/100C
CPU		SLエンハンスト486DX4-100MHz
システムRAM	標準	8MB 5Vタイプ
	最大	40MB(16MBRAMカード5Vタイプ2枚追加時)
BIOSROM		128KB フラッシュROM
ビデオメモリ		1MB(別に512KBビデオキャッシュ) 32ビット幅ローカルバス・アクセラレータ付き
ハードディスク		520MB 脱着式
フロッピーディスク		3.5インチ 3モード1.44MB/1.2MB/720KB 内蔵
ビデオ	LCD	800x600ドット DSTNカラー256色 0.28mmピッチRGB一組 10.4インチ 冷陰極管バックライト
	CRT	最大1024x768ドット256色(ノンインターレース) LCDと同解像度にて同時表示可能
インターフェース		シリアルポート(16550タイプUART) パラレルポート 外部CRTポート 外部キーボードポート PCMCIA V2.1 ICカードスロット SPEAKER端子 MIC IN端子 LINE IN端子
キーボード	仕様	3mmキーストローク メンブレン型
	キー数	84キー(106キーエミュレーション)
マウス		キーボード組込み型スティックポインタ 2ボタン式
サウンド		16ビットステレオデジタルサウンドWINDOWSサウンドシステム互換
機密保護機能		パスワード設定による保護機能
パワーセーブ機能		CPUクロックダウン ビデオ表示停止 ハードディスク停止 サスペンド・レジューム機能 などをユーザにて選択可能
カレンダ・時計・設定		リチウム電池によるバックアップ 5年間
電源	ACアダプタ	入力100V~240V50・60ヘルツ 出力19V2220mA
	電池	ニッケル水素充電式電池 12V2400mAH
寸法		296(W)x216(D)x45(H)
重量		2.6Kg

Appendix B ユーティリティとドライバソフト

システムのハードディスクドライブにはシステムをより快適に使用するためのいくつかのプログラムファイルが書き込まれています。ここではそのプログラムやドライバについての使い方を説明しています。

Appendix

ディスプレイ関連

■LCD画面での表示（J3DX4-100/C）

J3DX4-100/Cは800x600ドットの高解像度カラーLCDを搭載しています。Windows使用時には800x600ドットの表示を行うことができます。
通常のDOS/VまたはIBMPC/ATのプログラムは、640X480ドット以下の解像度で表示を行います。この場合LCD上には画面が中央に調整されて表示されています。回りの余った部分には表示されません。

■Windows用ディスプレイドライバのインストール

システムには既にWindows用ディスプレイドライバが組み込まれています。なんらかの都合で再度ドライバをインストールする場合には以下のように行ってください。
ドライバのインストールをおこなうには2種類の方法があります。何等かの理由により、適切な*WinBook Pro*用のドライバ以外のものが誤ってインストールされてしまい、Windowsが正常に立ち上がらなくなってしまった場合は、"MS-DOS上でWindowsセットアップを使う"方法をつかいます。"Windows & MS-DOS 6.2/Vユーザーズガイド"の"Windowsの拡張とセットアップ"の項目をお読みください。

- Windowsディレクトリから以下のようにタイプします。
  C: ¥Windows>SETUP>Enter>
- 画面に表示されるシステム情報のうち、上下の方向キーをつかってディスプレイ：の項目を反転表示にして<Enter>キーを押してください。
- 上下の方向キーを押して"＊*WinBook Pro* xxxxx"の希望するドライバを選択して<Enter>キーを押します。
  デフォルトドライバは＊*WinBook Pro* 800x600、256色、16ドットシステムフォントです。
- もし上記のドライバが見つからない場合はディスプレイドライバディスクをドライブにセットして、上下の方向キーをつかって"その他（ハードウェアメーカが提供するディスクが必要）"を選んで<Enter>キーを押します。その上で希望する"＊*WinBook Pro* xxxxx"ドライバを選択してください。

Windowsが立ち上がる場合には以下の方法を使ってください。

- "メイン"グループの"Windowsセットアップアイコン"をダブルクリックしてください。
- ＜設定＞の＜基本ハードウェアの変更＞を選択してディスプレイの項目を上記と同じ方法で選択してください。
- *WinBook Pro*の適切なドライバが見つからない場合はディスプレイドレイバディスクをドライブにセットし、"その他（ハードウェアメーカが提供するディスクが必要）"を選んでOKをクリックし、"その上で希望する*WinBook Pro*のドライバを選択してください。

ICカード関連

■CardSoftインストール

ICカードを快適に使用していただくためにカードソフトを用意しています。システムには出荷時にカードソフトがインストールされていますが、SRAMカードとATAカード用のドライバはメモリの節約のため、ロードしないように設定してあります。SRAMカード、ATAカードを使用される場合にはCONFIG．SYSファイルのデバイスドライバ分を変更する必要があります。
CONFIG．SYSの内容はMS－DOSのEDITコマンドまたはWindowsのメモ帳などで確認、変更が可能です。ここではEDITコマンドを利用して変更する場合を示しています。

CONFIG.SYSを変更する場合は、その前に必ずバックアップファイル（CONFIG.OLD等）をお作りください。カードソフトの起動時にWARNINGメッセージが表示されますが、これは異常ではありません。そのままお使いください。

```
C:¥> CD¥DOS <Enter>
C:¥> DOS¥EDIT <ENTER>
```

CONFIG.SYS内の文を下記のとおり変更してください。

出荷時の設定

```
<<その他の設定行>>
DEVICE=C:¥DOS¥EMM386.EXE RAM X=D000-D7FF
<<その他の設定行>>
DEVICE=C:¥CARDSOFT¥SSCIRRUS.EXE
DEVICE=C:¥CARDSOFT¥CS.EXE
DEVICE=C:¥CARDSOFT¥CSALLOC.EXE C:¥CARDSOFT¥CSALLOC.INI
rem DEVICE=C:¥CARDSOFT¥ATADRV.EXE
rem DEVICE=C:¥CARDSOFT¥SRAMDRV.EXE
DEVICE=C:¥CARDSOFT¥CARDID.EXE
```

SRAMカード、ATAカードを使用する場合はリマークをはずしてください。

```
<<その他の設定行>>
DEVICE=C:¥DOS¥EMM386.EXE RAM X=D000-D7FF
<<その他の設定行>>
DEVICE=C:¥CARDSOFT¥SSCIRRUS.EXE
DEVICE=C:¥CARDSOFT¥CS.EXE
DEVICE=C:¥CARDSOFT¥CSALLOC.EXE C:¥CARDSOFT¥CSALLOC.INI
DEVICE=C:¥CARDSOFT¥ATADRV.EXE   <=ATAカード用ドライバ
DEVICE=C:¥CARDSOFT¥SRAMDRV.EXE  <=SRAMカード用ドライバ
DEVICE=C:¥CARDSOFT¥CARDID.EXE
```

また、新たにデバイスドライバをインストールしたい場合はリファレンスディスクをご活

用ください。詳しいインストールの方法、使い方についてはリファレンスディスクのREADME.TXTをEDITコマンドなどを使ってご覧願います。

この作業にはシステムから作成したバックアップディスケットが必要です。システムが案内するバックアップの作成を行ってリファレンスディスクを作成してから作業に取りかかってください。

パワーセーブ関連

■POWER.EXE

POWER.EXEはコンピュータの性能を落とさずに消費電力を低下させるために取り決められた規格です。ソーテック*WinBook Pro*コンピュータはPOWER.EXEをサポートしています。すでに組み込まれていますが、MS-DOSの別売品をお使いになる場合にも必ずPOWER.EXEをCONFIG.SYSに組み込むことをおすすめいたします。

・MS-DOSをインストールしてください。
・CONFIG.SYSファイルの中に以下の一行を加えます。"DOS¥"と書いてあるのはPOWER.EXEをコピーしたサブディレクトリパスを指定するためのものです。コピーしたパスをここで指定してください。
DEVICE=C:¥DOS¥POWER.EXE
・<Ctrl>+<Alt>+<Del>を押して、MS-DOSの再読み込みを行い、この組み込みを有効にします。

■APM

APM（アドバンストパワーマネージメント)はコンピュータの性能を落とさずに消費電力を低下させるために取り決められた規格です。ソーテック*WinBook Pro*コンピュータはAPMをサポートしています。Windowsをインストールされる場合には"カスタムセットアップでインストールする"を選択し、システム情報の"コンピュータ:"の項目が"MS-DOS with APM"になるように選択してください。単なる"MS-DOS"設定より、アイドル時の大幅な消費電力の低下を実現することができます。なお、ソーテック*WinBook Pro*コンピュータにインストール済みのWindowsは"MS-DOS with APM"に設定されています。

■PMEXT.SYS

このプログラムはソーテック*WinBook Pro*コンピュータをご使用中にサスペンドレジュームを行ったときに発生する時刻のずれを修正するための専用デバイスドライバです。
ソーテック*WinBook Pro*コンピュータはシステムには既に組み込まれていますが、すでにMS-DOSをお持ちの場合はインストールを行ったのちに、このデバイスドライバを以下のように組み込んでください。

・MS-DOSをインストールしてください。
・リファレンスディスクをフロッピーディスクに装着し、PMEXT.SYSファイルをハードディスクにコピーしてください。
・CONFIG.SYSファイルの中に以下の一行を加えます。"PATH¥"と書いてあるのはPMEXT.SYSをコピーしたサブディレクトリパスを指定するためのものです。コピーしたパスをここで指定してください。
DEVICE=C:¥PATH¥PMEXT.SYS
・<Ctrl>+<Alt>+<Del>を押して、MS-DOSの再読み込みを行い、この組み込みを有効にします。

Appendix C システムメモリマップ

	WinBook Pro J3DX4/100C
FFFFFFFFH FFE00000H	システムBIOS領域
FFDFFFFFH 01600000H	予約領域
027FFFFFH 00800000H	拡張メモリカード増設領域
007FFFFFH 00400000H 003FFFFFH 00100000H	標準実装7MB領域
000FFFFFH 000F8000H	システムBIOS
000F7FFFH 000F0000H	PMプログラム領域
000EFFFFH 000E8000H	PMプログラムデータ領域
000E7FFFH 000E0000H	EMMページフレーム予約エリア
000DFFFFH 000D8000H	EMMページフレーム予約エリア
000D7FFFH 000D0000H	PCMCIA予約エリア
000CFFFFH 000C8000H	PnPBIOS
000C7FFFH 000C0000H	VGA BIOS
0000BFFFFH 0000A0000H	VGAディスプレイメモリ
00009FFFFH 000000000H	メインメモリ 640Kバイト

Appendix C システムI/Oマップ

03F8H~03FFH	COM1シリアルポート（シリアルポート）
03F0H~03F7H	フロッピーディスクコントローラ
03E2H~03EFH	予約領域
03E0H~03E1H	ICカードコントローラ
03C0H~03DFH	ディスプレイコントローラ
03B0H~03BFH	LPT3プリンタポート
0380H~03AFH	予約領域
0370H~037FH	LPT1プリンタポート（プリンタポート）
0300H~036FH	予約領域
02F0H~02FFH	PCMCIAのCOM2用として予約
0280H~02EFH	予約領域
0270H~027FH	LPT2プリンタポート
0230H~026FH	予約領域
0220H~022FH	サウンドチップ
0200H~021FH	予約領域
01F0H~01FFH	ハードディスク
0100H~01EFH	予約領域
00F0H~00FFH	数値演算プロセッサ用予約領域
00E0H~00EFH	予約領域
00C0H~00DFH	DMAコントローラ2
00A0H~00BFH	割り込みコントローラ2
0080H~009FH	DMAページレジスタ
0070H~007FH	リアルタイムクロック·カレンダ·その他
0060H~006FH	キーボードコントローラ
0050H~0053H	予約領域
0040H~004FH	タイマーコントローラ
0030H~003FH	予約領域
0020H~002FH	割り込みコントローラ1
0010H~001FH	予約領域
0000H~000FH	DMAコントローラ1

( )内はデフォルト設定の割り当てを示します。

■ INDEX